

令和4年度事業報告書

一般財団法人AVCC

自 令和4年4月1日

至 令和5年3月31日

目次

I 令和4年度 事業報告概要	3
II 霞が関ナレッジスクエア（KK2）事業	5
(1) 「教育の質の向上」を目指す教育DX推進.....	5
(2) AI社会を生きる力を考える.....	7
(3) 個人のレジリエンスを学ぶ.....	10
(4) 組織・地域を担うしごと力を学ぶ.....	13
(5) 文化に親しみ交流する.....	15
(6) その他事業.....	17
(7) KK ² 事業運用関連.....	17
III 地域・社会サービスのデジタル化を支援	28
(1) 自治体DX推進支援.....	28
(2) システムコンサルティング業務.....	30
(3) 情報セキュリティコンサルティング業務.....	36
(4) 新規業務（テレポーサイ・サービスの開始に向けた実証実験について）.....	38
IV デジタルイノベーション部	40
(1) デジタル活用カチェック(DKC)・デジタルしごとカチェック (DSC)の提供.....	40
(2) TV会議システム・Web会議システムの構築、保守管理業務.....	40
(3) 映像情報システムの構築、保守管理業務.....	41
(4) TV会議システム運用業務.....	42
V 教育イノベーション推進部	45
(1) 産学官連携事業「教育DX」推進.....	45
(2) NICE-NETサービスについて.....	46
(3) テレビ会議システムの運用支援、保守について.....	50
(4) ホール、会議室、研修室のAV運用支援業務、その他イベント支援について... ..	51
VI 教育情報サービス部	53
(1) 誰もが、何時でも、何処でも、学習できる環境の提供.....	53
VII 運営に関する事項	56
(1) 役員名簿.....	56
(2) 会議の開催.....	56
(3) 会員等（令和5年3月）.....	58

I 令和4年度 事業報告概要

「令和の黒船にどう立ち向かうか」

令和の世が始まり、Society5.0：デジタル社会が進展する令和4年8月、AVCCは、Advanced Valuable Communication Centerとして定款・名称をアップグレードしました。

AI社会の進展、「生成AI」が津波のように押し寄せ、情報提供者・情報量は指数関数的に拡大し情報過剰時代、情報を鵜呑みにせず考え咀嚼し消化する時間が圧倒的に不足していますが、デジタル社会では良好な「コミュニケーション」が成立しているのでしょうか？多くの人は一生懸命コミュニケーションを試みますが、相手の納得につながっているのか心もとないことが多いようです。昨今、言いつ放し、伝えたら仕事は終わり、みたいなことが多く、実は相手に伝わっているかどうか確認できていないことが散見されます。

コミュニケーションは、相性が合う者同士がいいに決まっています。しかし嫌な奴嫌いな奴苦手な奴とどうやって一緒に仕事をするかが、我々が抱えている課題です。コミュニケーション力とは、自分の考えを発信する力とイコールもしくはそれ以上に、相手が考えていること、相手が思っていることを把握し、お互いの違いをきっちり認識し歩み寄れるところが歩み寄り一緒に仕事ができる力です。あいつ嫌いだからあいつとは仕事しない、日本の社会はそうした甘えを許してきましたが、嫌いなこと、苦手なことを先送りせず向き合っていくことがとても重要です。

日本には1853年に「黒船」が来ました。「泰平の眠りをさます蒸気船たった四杯で夜も眠れず」という狂歌が日本中で流行りました。当時の日本社会が右往左往した様子が窺えます。この時代、「寺子屋」がすごく機能を果たしたようです。現在小学校と中学校合わせて全国で3万校前後ぐらいだと思いますが、寺子屋・私塾は色々文献によりますけど全国で6万か所くらいあったと言われています。

寺子屋の特徴を幾つかあげると、江戸時代は士農工商という身分制度があったが、寺子屋では身分による差別があまりみられなかった。身分を問わず「読み書き算盤」ができる人を育んだようです。今でいうサラリーマン的な仕事は主に侍でした。親が農業をやっているれば、農地が狭ければ長男だけかもしれませんが基本的には子が親の職業を継ぐ。親が職人さんだったら子ども職人になる、親が商人だったら子が商いを継ぐ。家業を親から子へ継承していくっていう基本的な流れの中で、子供の教育はというと、実はどこの家もそんなに余裕は

なく、親は稼ぐこと生きることが精一杯だったようで、子供の教育は地域社会に委ねていたようです。

地域社会には寺子屋があり師匠と呼ばれる人がいた。僧侶であったり、神職、学識ある浪人であったり、親は地域の寺子屋に自分たちの子供の教育を託していました。教育の中味は「読み書き算盤」だけでなく「躰け」が重んじられていたようです。一律の内容を一斉に教えることは少なく、一人一人家業や事情が異なるため、子供たちが自立し地域社会を共に担う一人前の人間を育む営みだったようです。地域のお寺の本堂など場があれば、師匠と筆子(学習者)のフェーストウフェースな指導が繰り返されたようです。鎖国していた、平和だった地域で、地道に教育が営まれ、お互いに学び合いレジリエントな地域が育まれたとも言えます。そして黒船来航、開国、明治維新、農業社会から工業社会等、寺子屋・私塾が急激に変わっていく時代を支える人材を輩出した、といっても過言ではないと思います。

令和の世になり日本には再び「黒船」が来ているようです。内には急激な人口減少社会の到来、デジタル社会を牛耳るプラットフォーマー、COVID-19パンデミック、力によって現状変更しようとする勢力の台頭等々、日本社会は右往左往しています。江戸時代の「読み書き算盤」は令和の世では「読み書きデジタル」です。江戸時代の「躰け」を令和の世では「誰が」「どうする」のでしょうか？令和の世、非常に忙しく、情報量もTERA単位に増え、時間が足りない。こうした中で、言いたいことも伝えっ放しが非常に多いように思います。こういう時だからこそAdvanced Valuable Communicationを実現しなければならないのです。本当に面倒くさいことです。

デジタル社会に入っても、学校教育・職業教育等様々な教育の場で、一斉授業形式がいまだに一般的ですが、これでAdvanced Valuableな「教育」が実現できるのでしょうか？講師は一方向的に講義し質疑の時間もなく、期末テストで100点なら「A」30点だったら「D」。いい大学いい会社に入ることが目的化し、出来る人と出来ない人を区別する「教育」になつてはいないでしょうか？

昨今通勤電車はめちゃくちゃに混んでいます。リアル勤務へ戻る企業も見受けられます。しかしリモート勤務を体験すると、リモート勤務から離れられない事情の人も発生しています。在宅勤務のメリットとして、往復約3時間の通勤時間を節約でき、親の介護に時間を割くことや子育てに時間を割くことができるようになりました。都会で働く人間は地域コミュニティには関わらなかった人も多く、今まで疎遠だった地域社会との繋がりが出来、地域人としての役割を得た方も居られます。リアルとバーチャルをうまく融合させた働き方で企業

人+地域人を育むことも、これからどんどん進めていくべきではないでしょうか。

人は課題に立ち向かうとき、正解を求め正解を探す傾向がありますが、正解なんて無いことが多いのです。大学受験では、唯一解をたくさん答えられた人が高い点数を取るのですが、多くの社会の課題には唯一解はなく、正解を求めるが、正解が見つからない。故に行動しないでは、棚上げ、先送りでしかなく、オロオロするだけでは事態は何も変わりません。

あいつ嫌いだと言って、戦争を起こされたのでは堪らないですね。嫌いな奴苦手な奴とどうやって共に生きるか？非常に重要なことではないでしょうか。今まで気の合う人同士、仲のいい人同士、でつるんできた。嫌いな奴が職場に来たら2年でどっちかが異動するからと言って、おとなしく黙って2年間を過ごすとかですね。今この国は、そんな余裕はもうないので。嫌いな人と一緒に生きる生き方をぜひ考えましょう。

デジタル人材の圧倒的不足に対して、リスキリングの予算が付いていますが、スペシャリストを促成栽培する発想では駄目だと思います。これからの時代は、他者をサポートできる人が周りを一生懸命底上げしていくことが重要です。かつて寺子屋は、お百姓さんの子も商人の子も職人の子もみんな算盤ができるように教育していた。それで明治維新を乗り切ったのです。今必要な読み書きデジタルですが、この国の多くの人にはデジタルについて学んだことはありません。デジタルは生活や仕事を通じて、必要あれば基本的に自学自習するものです。最近小中学校でギガスクール教育が始まりましたが教える先生の格差があって、よくできる先生に出会えた子供さんはとてもラッキーです。一人一台パソコンとかネット環境は整備されたが、デジタル・デバイドはますます広がっています。デジタル化は幅広く多岐に亘り、フォローが大変です。DSC(デジタルしごと力チェック)では、AVCCの職員に求められるデジタルリテラシーとして、「データ活用力」「リモートワーク力」「デジタル情報発信力」を定義しチェックできるようにしました。良い点取ることを目的とせず、自分自身の強み弱みを把握し自学自習のきっかけにすることが目的です。今後生成AIとの対話力等も加えてバージョンアップを進めます。

AVCCはデジタル公民館®の普及を目指し活動しています。「DKC=デジタル活用力」「DSC=デジタルしごと力」を地域単位チェックし地域住民の強み弱みを把握します。次に地域の中で、できる人(TAV:Teaching Asistant Volunteer)ができない人を教えます。得意な若者が高齢者をサポートする等、世代を超えた学び合いで、得意は教え、不得意は学びましょう。デジタル公民館の学習サイクルを地域ごとに作り上げていきたいと考えています。そのためのプラットフォームをKK2サイト用意し、リアル+リモート=ハイブリッドな

学びの仕組みを無償で提供しています。全国どこでもデジタル公民館活動を皆さん実践してください。

令和4年度より開発に取り組んでいた「IoT道場 ～Raspberry PiとPythonでIoTに挑戦！～」(令和5年より順次リリース)は、指導するデジタル人材不足の下で、「自学自習」と学習者同志の「学び合い」によるプログラム学習とIoT実習の実現を目指すものです。紹介ビデオをご覧ください、まずは前半「Python基礎講座」(無料)からお試しいただければ、デジタル人材の初めの一步を踏み出すことができます。人口が減少し続けるこの国で、教えてくれる人を待っていても来ません。教えてくれる人を他に求めるのではなくて、自分たちのコミュニティの中で自学自習と学び合いが重要です。AIとかIoTを自分の手の内に入れて行動することが、今求められています。

II 霞が関ナレッジスクエア（KK²）事業

令和4年度は、新名称となった一般財団法人 AVCC（Advanced Valuable Communication Center）のもと、公益目的事業として霞が関ナレッジスクエア（KK²）事業を推進しました。「共に考え、共に学び、共に担う社会へ」をミッションに掲げた「デジタル公民館®」活動も令和4年度で14年目を迎えました。「世代を超えて支え合う、デジタル社会の実現」「Advanced Valuable Communicationの実現」に向けて、いつでもどこでも誰もが学び交流できる場の提供を行っています。

（1）「教育の質の向上」を目指す教育DX推進

KK²は「教育の質」の向上を目指し「教育DX」を推進しています。教育の場で得られたデータを評価し、双方向（Two Way）の教育を実現することで、教育の質を高め、講師の教授力向上を目指しています。令和4年度は以下の活動を行いました。

－ 1 KK²デジタルプレゼンテーションプラットフォーム（DPP）

～教育DX支援ツール開発・提供～

KK²のプログラムはDPP^{※1}を活用し「リアル研修／集合学習」「ライブ学習」「オンデマンド学習」の3つの形式で、アナライザ（Response Analyzer）^{※2}を活用した対話型（TwoWay：双方向性）の学びを実現しています。令和4年度については、AVCCの職員としてデジタル社会で求められるしごと力を、「A.データ活用力」「B.デジタル情報発信力」「C.リモートワーク力」「D.デジタル人間関係力」「E.デジタル問題解決力」「F.デジタル行動力」の6項目にまとめ、各項目を細分化したコンピテンシー・インベントリーを作成し、各コンピテンシー毎に質問・チェックするDSC(デジタルしごと力チェック)を令和4年11月に公開しました。一年間ほどAVCCの職員有志が議論し作成しています。詳細については、事項-3 デジタル仕事力チェック (DSC) の提供を参照ください。

令和4年度の教育現場での利用状況は、3大学1中学校の320授業で、延べ26,637名の学生／生徒がDPPを利用した授業に参加しました。



2022年度学校でのDPP利用状況

－ 2 協賛メンバー様専用ページの提供（協賛メンバーページ）

KK²Webサイトにログインした時のメールアドレスのドメイン名（@以下）を認識し、協賛メンバー様の組織名称等を表示する専用ページサービスをご提供しています。KK²プログラムの中から従業員に学ばせたいプログラムをピックアップして表示したり、協賛メンバー様のオリジナルの動画教材も登録が可能です。前述のDPPもご利用いただけます。

ユーザー様の管理画面を用意し、専用ページの編集・学習者管理・学習履歴の閲覧などが可能です。組織としてKK²プログラムを活かした自己学習環境を従業員に提供し、学びたい従業員がWeb会員登録をすれば自己学習を進めることができます。

令和4年度時点、協賛メンバーページのご利用は合計で7団体となっています。

－ 3 KK²ラーニングマネジメントシステム（LMS）の提供

人材育成の必要性・重要性を否定する人はいませんが、企業規模が小さい中小零細企業ほど学習機会に乏しく、学びの格差が広がっています。人材育成を実施する上では「業務が多忙で、育成の時間的余裕がない」「上長等の育成能力や指導意識が不足している」「人材育成が計画的・体系的に行われていない」等が大きな課題となっています。

KK²ラーニングマネジメントシステムは、「リアル研修（KK² or セミナー会場）」「ライブ学習」「オンデマンド学習」で学習機会を増やし、「自分で自分を育てる」自律した人材を育てることを目的としています。KK²で開発し公開している、社会や組織で活躍するために必要な「しごと力」を学べ

る動画プログラムを教材として活用できるプラットフォームです（協賛メンバー様限定）。

(2) AI社会を生きる力を考える

仕事、教育、生活、医療・介護、地域活動など様々な分野でデジタル化が進み、利便性、可能性を享受できるようになってきましたが、その一方で、リスクの理解、個人の自律、組織としての行動規範、知識・スキルの習得が重要になっています。また、デジタル社会の利便性を享受できていない方々もいらっしゃいます。令和4年度は、様々な視点から、AI社会のこれからについて、みなさんと共に考え、共に学ぶプログラムを行いました。

- 1 AVCC&KK²事業説明会/特別講演会

AVCC賛助会組織、KK²協賛メンバー組織など事業を支えていただいているみなさんへ事業説明会/特別講演会を開催しています。令和4年度は、デジタル社会における日本の課題や今後どう生きるのかをテーマに2回開催しました。

① 4月8日開催「日本をこう変える」著者 松田学氏を囲むクロストーク【ライブ配信】

AVCC&KK²特別プログラム

4月8日に「『日本をこう変える』著者 松田学氏を囲むクロストーク【ライブ配信】AVCC&KK²特別プログラム」と題してライブ配信で開催し192名の方にご参加いただきました。令和3年12月に開催した「AVCC&KK²特別講演会 [2021冬] 明日はどうなる！令和の日本」の続編として、講師の松田学氏が2月に出版された「日本をこう変える」を題材に「第1部：著者トーク」と「第2部



：著者を囲んでクロストーク」で構成し、第2部では、KK²アドバイザリーメンバー6名から出される質問・疑問に松田学氏が応え、議論をより深めました。ライブ配信で192名の方にご参加いただきました。

●クロストーク登壇者（五十音順・所属はプログラム開催当時のものです）

秋田義一氏：一般社団法人 話力総合研究所 理事長

伊藤健二氏：KK²産学官連携首席研究員／三幸学園 理事長特別補佐（戦略担当）／
働き方改革研究センター センター長

鎌田修広氏：株式会社タフ・ジャパン 代表取締役社長

首藤武氏：ニッセイ情報テクノロジー株式会社 公共年金事業部 プリンシパルシニアコンサルタント

菅原貴与志氏：弁護士

山村由美子氏：積水ハウス株式会社 CRE事業部 医療・介護事業推進室課長

② 8月23日開催「AVCC名称・定款変更記念 法話&クロストーク『どう生きるか～自ら考え、行動する時代～』」

AVCCが名称・定款を変更した8月23日に「AVCC名称・定款変更記念 法話&クロストーク『どう生きるか～自ら考え、行動する時代～』」を開催いたしました。これからの組織・コミュニティはどうなっていくのか、日本人はどう生きるのか、正解がない問ですが、皆様と共に考え、共に学ぶ機会といたしました。法話は「どう生きるか」と題して、柴田文啓氏



(臨済宗妙心寺派 開眼寺 住職)にお話しいただきました。クロストークでは、柴田住職に加えて、AVCCの平田理事、野田評議員、進行役の伊庭野理事が登壇し、デジタル社会やグローバル社会などの視点から日本の課題について、意見を伺っていきました。ハイブリッドで開催し会場に48名、ライブ配信で163名の方にご参加いただきました。

AVCC&KK2事業説明会/特別講演会	開催日	オンライン参加者	属性内訳		Webページ訪問者合計	Web訪問者内訳			動画視聴者数	合計	オンデマンドレビュー(5段階評価)
			メンバー	Web会員		PC	タブレット	スマホ			
「日本をこう変える」著者 松田学氏を囲むクロストーク【ライブ配信】	2022/4/8(金)	192名	91名	101名	2,496名	1,545名	81名	870名	437名	3,125名	4.3
法話&クロストーク「どう生きるか～自ら考え、行動する時代～」【会場参加】	2022/8/23(火)		22名	26名	739名	577名	2名	160名		787名	
法話&クロストーク「どう生きるか～自ら考え、行動する時代～」【ライブ配信】	2022/8/23(火)	163名	83名	80名	2,387名	1,878名	52名	457名	164名	2,714名	4.6
合計		355名	196名	207名	5,622名	4,000名	135名	1,487名	601名	6,626名	

－ 2 地域における「デジタル公民館®」活動

KK2は「誰も置き去りにしないデジタル社会」の実現を目指し、地域・コミュニティの中で、世代を超えた学び合い、高齢者や生きにくさを抱えるデジタル弱者をデジタルが得意な若者が支えていく、自分が得意なことを周りの人と分かち合い、学び合う「デジタル公民館活動®」を推進しています。

① 「デジタル公民館まっさき」「デジタル公民館けせん」活動

(岩手県大船渡市末崎地区/けせん地区)

～気仙とKK2のコミュニティ活動の交流～ (岩手県大船渡市/陸前高田市)

「デジタル公民館まっさき」活動は、平成23(2011)年 東日本大震災で大きな被害を被った岩手県気仙地方、大船渡市末崎(まっさき)地区を中心に継続的に訪問し、地域住民の方々と都会から出向い

た参加者が共に進めてきました。令和2年度以降は、PC・スマホ教室運営支援活動、地域活動運営支援はコロナ禍により現地訪問ができない状況が続いています。令和4年度は、Webサイトのサーバ運用を継続して行いました。

- ・まっさきWebサイト <http://www.massaki.jp/>

② 「デジタル公民館やねだん」活動（鹿児島県鹿屋市串良町柳谷集落）

～行政に頼らない「むら」おこしを応援～

行政に頼らず自律したむらづくりを行っている「やねだん」のデジタル化を支援しています。やねだん自治公民館に設置したWi-Fi、TV会議機器を活用して、館長の豊重哲郎さんが塾長を務める「やねだん故郷創世塾」のオンライン化に協力しています。

令和4年度は2回「やねだん故郷創世塾」で、KK²からZoomとテレビ会議、DPPを使って双方向のオンライン講演を行いました。やねだん会場では、自治体職員・医療福祉職員の方を中心にご参加いただきました。収録動画はKK²Webで公開しています。

- ・「第31回やねだん故郷創世塾」

[「誰一人取り残されないデジタル社会の実現」](#)（5月15日開催）23名参加

- ・「第32回 やねだん故郷創世塾」

[「自ら考え行動するデジタル人材を育む」](#)（11月20日開催）25名参加



Webサイト「やねだん」の運営、「故郷創世塾」の卒塾生メーリングリスト管理業務も引き続き行いました。

- ・やねだんWebサイト <https://www.yanedan.com/>
- ・第17回エキスパート・スタジオ 豊重哲郎さん（やねだん自治公民館長）
<https://www.kk2.ne.jp/kk2/biz02/exp017.html/>

③ 「千代田区霞が関三丁目町会」活動（東京都千代田区）

企業町内会「霞が関三丁目町会」に加入し、町会の企業・組織の従業員の方たちの交流の場づくりに協力しています。令和4年度はコロナ禍の影響を受け町会の活動は制限され新たな活動は行いませんでした。

④ 「大規模災害時における帰宅困難者等受入に関する協定」（東京都千代田区）

平成27(2015)年2月、千代田区と「[大規模災害時における帰宅困難者等受入に関する協定](#)」を締結、東日本大震災発災時にKK²が独自に帰宅困難者受入を行った経験を活かし、震災、水災等の災害により、被災した千代田区内の帰宅困難者等を一時的に「エキスパート倶楽部」と「スタジオ」に受入協力を行います。

帰宅困難者等受入にあたっては、千代田区災害対策危機管理課との専用防災無線、災害時特設公衆電話（4回線）、3日分の水・食料、毛布、携帯トイレなどの備蓄品、大型ディスプレイでの災害情報番組の放送（最新の交通情報、被害情報など）、Wi-Fi回線の開放及びパソコンの無料貸出、スマホや携帯電話の充電対応などを準備しています。

令和4年度は、千代田区の防災無線訓練の実施（月1回）、備品の期限等のチェックを行いました。

（3）[個人のレジリエンスを学ぶ](#)

「変化にしなやかに対応する力」をKK²では「レジリエンス」と呼んでいます。未曾有の災害をはじめ、これまで人類が遭遇したことのない様々な課題を抱える現在、大きな変化に向き合い、周りの人々と協力しながら課題を解決し、前に進むことができる力が一人ひとりに求められています。令和4年度もレジリエンスを学ぶプログラムを提供しました。

－ 1 [「愛の見える化」から始める防災準備](#)（レジリエンスを学ぶプログラム）

平成25(2013)年度よりKK²ではレジリエンスを学ぶプログラムを開催しています。過酷な現場で活躍する約3万人の消防士の方々の育成に携わってきたKK²アドバイザーメンバー 鎌田修広さん（株式会社タフ・ジャパン代表取締役）にご協力をいただいています。



令和4年度は『「愛の見える化」から始める防災準備』を「家族愛」「隣人愛」「地元愛」をテーマに3回シリーズで開催しました。鎌田さんと参加者の皆さんが双方向で「愛の見える化」を語り合い、深堀する定員8名のWeb会議オンラインワークショップです。しごと力向上ライブラリ「『愛の見える化』から始める防災準備」を制作し、事前学習に活用していただきました。

なお、収録を行いませんでしたので開催レポートを各回のWebページに掲載をしています。

- ・7/23開催 第1回「愛の見える化」から始める防災準備 テーマ「家族愛」
- ・10/22開催 第2回「愛の見える化」から始める防災準備 テーマ「隣人愛」
- ・1/28開催 第3回「愛の見える化」から始める防災準備 テーマ「地元愛」

「愛の見える化」から始める防災準備」参加者数

「愛の見える化」から始める防災準備	開催日	会場参加者	オンライン参加者	属性内訳			Webページ訪問者合計	Web訪問者内訳			動画視聴者数	合計	オンデマンドレビュー(5段階評価)
				メンバー	Web会員	一般		PC	タブレット	スマホ			
第1回 テーマ「家族愛」	2022/7/23(土)		7名	2名	5名	0名	638名	546名	2名	90名		645名	
第2回 テーマ「隣人愛」	2022/10/22(土)		8名	8名	0名	0名	415名	348名	6名	61名		423名	
第3回 テーマ「地元愛」	2023/1/28(土)		8名	8名	0名	0名	340名	274名	3名	63名		348名	
	合計		23名	18名	5名	0名	1,393名	1,168名	11名	214名		1,416名	

- ・第51回エキスパート・スタジオ

レジリエンス人材育成トレーナー 鎌田修広さん（株式会社タフ・ジャパン 代表取締役社長）

<https://www.kk2.ne.jp/kk2/biz03/exp051.html/>

－ 2 霞が関坐禅会 ～自分自身と向き合ってみよう～

東京禅センター様にご協力いただき開催している「霞が関坐禅会」は、コロナ禍を受けて令和3年度はオンラインで開催をしていましたが、令和4年度は3年ぶりに対面で再開し3/9に1回開催し、11名にご参加いただきました（定員18名）。柴田文啓さん（長野県千曲市 開眼寺住職）、並木泰淳さん（台東区 金龍寺住職）にお越しいただき、法話、坐禅についてお話を伺い、心身ともにリフレッシュできるプログラムです。



霞が関坐禅会	開催日	会場参加者	オンライン参加者	属性内訳			Webページ訪問者合計	Web訪問者内訳			動画視聴者数	合計	オンデマンドレビュー(5段階評価)
				メンバー	Web会員	一般		PC	タブレット	スマホ			
第十二回 霞が関坐禅会	2023/3/9(木)	11名		2名	9名	0名	376名	194名	9名	173名	27名	414名	

－ 3 **KK²キャリア相談室**

KK²キャリア相談室は平成22(2010)年にスタートし、平成23(2011)年より特定非営利活動法人日本キャリア開発協会(JCDA)と提携を開始しました。仕事はもちろん、人生全体をライフキャリアとしてとらえ、幅広い相談に対応しており、職業紹介を行わない、キャリア相談に特化したカウンセリングが特徴です。

令和4年9月より、カウンセラーのメッセージ動画を掲載しプロフィール情報を増やしました。また4月より対面も再開し「対面」「オンライン」の2種をご用意しています。令和4年度は8名の方にご利用いただきました(4名 対面/4名 オンライン)。

KK²キャリア相談室カウンセラー (令和4年度/敬称略)

 徳橋英治氏 JCDAキャリア・ディベロップメント・アドバイザー	 堀田治見氏 株式会社ビジネスパラダイム(日本) 代表取締役	 垣内啓江氏 JCDAキャリア・ディベロップメント・アドバイザー
 田代理恵氏 JCDAキャリア・ディベロップメント・アドバイザー	 早坂明美氏 JCDAキャリア・ディベロップメント・アドバイザー	 伊庭野基明氏 グローバルキャリアカウンセラー(アドバイザー)

－ 4 多様な方たちの働く場「**エキスパート倶楽部**」のカフェ運営

平成30(2018)年度より社会福祉法人むそう様にエキスパート倶楽部の一般営業(ランチ・カフェ業務/土日祝日を除く11:30~15:00)の運用を行っていただき、多様な方たちの働く拠点の一つとして活用していただいています。むそう様は、愛知県半田市に本部をおき、家族がいなくなっても障がいのある方が「自分らしい暮らしを、暮らしたい地域で継続できる」ことをめざして「誰もが生きやすい社会をつくりたい」をモットーに平成11(1999)年より活動を続けています。

令和4年度も、店内でのビュッフェ、テイクアウトのランチ提供を十分な感染対策を行い、安心安全な運営を行っていただきました。千代田区の感染症予防対策必須項目に加え、より高度な予防対策である推奨項目を5つ以上実施し「千代田区新しい日常店」認証ステッカーを取得、また東京都の「感染防止徹底宣言ステッカー」も更新しています。また4月にはキャッシュレス決済対応レジも導入しました。

- ・社会福祉法人むそうWebサイト <https://musou.or.jp/>
- ・第53回エキスパート・スタジオ

NPO法人ふわり・社会福祉法人むそう 理事長 戸枝 陽基さん

<https://www.kk2.ne.jp/kk2/biz03/exp053.html/>

(4) 組織・地域を担うしごと力を学ぶ

KK²では「社会で活躍するために必要な力」を「しごと力」とよんでいます。学校で学ぶ Knowledge（知識）、Skill（技能）だけでなく、Feel（人間関係力）、Think（問題解決力）、Act（行動力）といった、人間の行動特性（コンピテンシー）も含んでいます。長寿社会、生涯現役時代において、主に組織で活躍する世代（アソシエイト/リーダー層）、また組織を離れて地域や新たな場で役割を担う世代（シニア層）に必要な「しごと力」を学ぶ場を提供しています。

－ 1 社会で活躍する人のしごと力を学ぶプログラム

～新装「デジタルTERA小屋～エキスパートと学ぶ～」を開催～

KK²では、様々な分野で活躍するエキスパートをゲストに迎え、仕事や働く喜びについて共に考え学ぶ「エキスパート・スタジオ」（55名のゲスト）、令和3年度には、ゲストと参加者がWeb会議を使ってオンラインで対話するプログラム「デジタルTERA小屋」シリーズをスタートしました。

令和4年度は、会場参加とライブ配信参加のハイブリッド形式でDPPを活用し、構成も新たに新装「デジタルTERA小屋」を企画しました。令和5年3月3日「[第3回 デジタルTERA小屋～エキスパートと学ぶ～ 野田弘子さん ダイバーシティなくして日本の未来なし！](#)」を開催し、会場・オンライン参加合わせて24名の方にご参加いただきました。



デジタルTERA小屋	開催日	会場参加者	オンライン参加者	属性内訳			Webページ訪問者合計	Web訪問者内訳			動画視聴者数	合計	オンデマンドレビュー(5段階評価)
				メンバー	Web会員	一般		PC	タブレット	スマホ			
第3回 デジタルTERA小屋～エキスパートと学ぶ～ 野田弘子さん	2023/3/3(金)	12名	12名	14名	10名	0名	685名	517名	8名	160名			4.5
合計		12名	12名	14名	10名	0名	685名	517名	8名	160名	名	685名	

－ 2 しごと力向上ライブラリ

「[しごと力向上ライブラリ](#)」は、若者向けのシリーズを加えると累計103講座347単元を開発しています。学校教育や企業研修という枠を超え、社会で活躍するために必要な「しごと力」を学べる講座を提供しています。視聴後には、レビュー（5段階評価）とコメントの投稿ができますので、視聴者からの貴重なフィードバックを参考によりよい講座の開発をすすめています。また一部の講座には、設問機能や理解度チェックテストがあり、KK²マイページで学びのログを確認できます。

令和4年度はしごと力を高めるビジネスコミュニケーション「7つの極意」（5本シリーズ）「愛の見える化」から始める防災準備 ～家族・隣人・地元とのつながり強化で命を守る～（2本シリー

ズ) の2講座を開発しました。制作にあたっては、MOU締結団体の一般社団法人話力総合研究所様、株式会社タフ・ジャパン様のご協力をいただいております。

「しごと力向上ライブラリ」

講座名	単元名	再生回数	公開月	オンデマンドレビュー (5段階評価)
「愛の見える化」から始める防災準備～家族・隣人・地元とのつながり強化で命を守る～	1.愛の見える化とは	69	5月	4.4
	2.家族愛、隣人愛、地元愛とは	43		
しごと力を高めるビジネスコミュニケーション「7つの極意」	① 話の効果을上げるための7つ道具	114	6月	4.9
	② ビジネスコミュニケーションの要は説明力	116		
	③ 上司と部下のキャッチボール 指示・依頼 報告	89		
	④ 説得力が仕事の成果を左右する	70		
	⑤ 人を育てる黄金比 7(称赞) 対 3(忠告)	50		

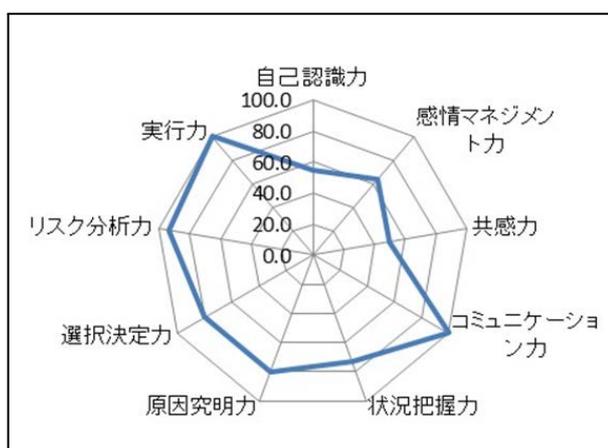


－ 3 コンピテンシー・チェック (Webチェックプログラム)

～「Feel」「Think」「Act」あなたのコンピテンシーをチェック～

社会に貢献している人、社会で活躍する人、優れた仕事をする人が備える「しごと力」の中核となるコンピテンシー「Feel（人間関係力）、Think（問題解決力）、Act（行動力）」について理解し、自分自身の学習課題を知るWebチェックプログラムです。Web会員登録を行えばどなたでも無料で利用できます。

KK²「コンピテンシー」9項目に関するケーススタディ（ドラマ）を視聴し、自分ならどう考え行動するのかをWeb上に入力します。入力内容と模範回答をセルフチェックし、自分に足りないコンピテンシーについて気づきを促す学習プログラムです。令和4年度は、51名の方に利用いただきました。



講座名		ケーススタディ	理解度 平均スコア	受講者数
人間関係力 (Feel)	自己認識力	「就職活動」	54.8	21名
	感情マネジメント力	「年下の上司」	64.3	7名
	共感力	「父親の転勤」	49.5	6名
	コミュニケーション力	「バイトのシフト交替」	100.0	4名
問題解決力 (think)	状況把握力	「町のゴミ問題」	73.3	3名
	原因究明力	「パソコン故障の原因」	80.0	3名
	選択決定力	「妹の進路決定」	80.0	2名
	リスク分析力	「犬小屋づくり」	93.3	3名
行動力 (Act)	実行力	「アイスホッケーのスターになるために」	100.0	2名
			合計	51名

(5) 文化に親しみ交流する

気軽に文化に親しみ交流する場を提供することを目的としたプログラムです。地域の食文化や伝統芸能など様々な文化を楽しんでいただけます。

- 1 食と文化講座

食を通じて地域や生産者の魅力を紹介するプログラムです。令和4年度は開催しませんでした。

- 2 霞が関寄席

気軽に伝統芸能に親しみ、笑いでストレス発散できる場として寄席を開催しています。令和4年度は5月25日「霞が関寄席 馬玉・駒与志二人会」、9月2日「チャリティー霞が関寄席 金原亭駒与志 独演会～夜長月の癒し～」、12月7日「霞が関寄席 馬玉・駒与志二人会」の3回、会場とライブ配信のハイブリッド形式で開催いたしました。

なお、チャリティー霞が関寄席では、本公演とライブ配信の収益より、108,500円を霞が関ナレッジスクエア「デジタル公民館」活動に寄付させていただきました。皆様のご理解とご協力に厚く御礼申し上げます。

「霞が関寄席」参加者数

霞が関寄席	開催日	会場参加者	オンライン参加者	属性内訳			Webページ訪問者合計	Web訪問者内訳			動画視聴者数	合計	オンデマンドレビュー (5段階評価)
				メンバー	Web会員	一般		PC	タブレット	スマホ			
五月 霞が関寄席 馬玉・駒与志二人会(2022年)	2022/5/25(水)	87名		25名	25名	37名	338名	212名	6名	120名	64名	338名	5.0
【ライブ配信】五月 霞が関寄席 馬玉・駒与志二人会(2022年)		41名		15名	26名		631名	357名	20名	254名			
チャリティー霞が関寄席 金原亭駒与志独演会～夜長月の癒し～(2022年9月)	2022/9/2(金)	80名		36名	22名	22名	725名	467名	2名	256名	108名	725名	4.9
【ライブ配信】チャリティー霞が関寄席 金原亭駒与志独演会～夜長月の癒し～		40名		9名	31名		587名	376名	9名	202名			
十二月 霞が関寄席 馬玉・駒与志二人会(2022年)	2022/12/7(水)	79名		29名	26名	24名	672名	429名	5名	238名	44名	672名	5.0
【ライブ配信】十二月 霞が関寄席 馬玉・駒与志二人会(2022年)		51名		10名	41名		546名	349名	8名	189名			
合計		246名	132名	124名	171名	83名	3,499名	2,190名	50名	1,259名	216名	1,735名	

出演：金原亭馬玉さん、金原亭駒与志さん

－ 3 「霞が関音楽祭」への協力

霞が関コモンゲート、霞が関ビル等近隣の組織が主催する「霞が関音楽祭」に協力していますがコロナ禍を受けて中止が続いており、令和4年度は開催の計画がありませんでした。「霞が関音楽祭」にこれまでご協力いただいたMuCuL（ミュウカル）様には会場提供の協力を行いました。

－ 4 江戸TOKYO散歩～広重「名所江戸百景」と東京の今～

(英語/韓国語/中文簡体/中文繁体版対応)

KK²開設記念に制作したオリジナル作品「江戸 TOKYO 散歩」は、歌川広重の最高傑作といわれる「名所江戸百景」から春夏秋冬の12景をモチーフに紹介、江戸と現在の東京の街並み、人々の営みを映像に収めています。多言語（英語/韓国語/繁体字/簡体字）版を[KK²Webサイト](#)、[KK²公式YouTubeチャンネル](#)、EdoTokyoSanpoチャンネルで公開しています。令和4年度の動画視聴回数は、合計1,484回でした。

動画視聴回数	日本語	英語	韓国語	中文簡体	中文繁体	合計
プロローグ	123	21	14	16	6	180
Vol.1「虎の門外あふひ坂」(虎ノ門)	83	9	12	13	12	129
Vol.2「浅草金龍山」(浅草)	25	5	8	8	7	53
Vol.3「湯しま天神坂上眺望」(湯島)	24	6	55	7	10	102
Vol.4「する賀てふ」(日本橋三越前)	279	11	20	7	10	327
Vol.5「山下町日比谷外さくら田」(日比谷)	47	5	5	3	3	63
Vol.6「飛鳥山北の眺望」(王子・飛鳥山)	41	16	6	3	8	74
Vol.7「大はしあたけの夕立」(新大橋)	84	10	6	5	7	112
Vol.8「堀切の花菖蒲」(堀切)	32	8	12	4	6	62
Vol.9「はねたのわたし 辨天の社」(羽田)	36	3	4	3	6	52
Vol.10「両国花火」(両国)	43	6	8	4	4	65
Vol.11「京橋竹がし」(銀座)	65	4	11	5	6	91
Vol.12「四ツ谷内藤新宿」(新宿)	139	6	9	10	10	174
合計	1,021	110	170	88	95	1,484

(6) その他事業

KK²事業が提供するサービスをご利用になった団体、およびKK²アドバイザーメンバーの団体の方々からのお困りごと、新規事業などについてのご相談をいただき令和4年度に以下2件の業務を行いました。

- ・ホームページ制作・公開業務（社会福祉法人全国重症心身障害児(者)を守る会様）

<https://www.mamorukai.jp/>

全国重症心身障害児(者)を守る会様は、重い障害のある子どものいのちを守るため、親たちが中心となって昭和39年6月13日に設立。「最も弱いものをひとりももれなく守る」という基本理念に沿って、重症心身障害児者の医療・福祉・教育における施策の充実に向けた運動を展開するとともに、全国各地に支部を置き、地域における重症心身障害児者への理解を深める活動をされています。また、昭和41年に社会福祉法人を設立し、幼児から成人まで一貫した社会福祉事業を行っていらっしゃいます。既にホームページで情報発信をされていましたが、動画を含めた情報発信の向上、運用の負荷軽減などを目的としてホームページの新規制作、新サーバの設定を行い、運用者様のマニュアルを納品いたしました。

- ・「消防職員の体力管理に関する運動プログラム等作成業務（消防庁）」における映像撮影・編集業務（株式会社 第一学習社様）

地方公務員法の改正(令和3年)により、消防職員の定年が引き上げになったことを受けて、65歳まで消防現場業務に従事し活躍することを目指した体力管理・健康維持が大きな課題となっています。本業務では、加齢に伴う身体機能の低下の分析、体力維持・向上のための運動プログラムの作成を行い、全国の消防本部への展開を行うことを目的としています。第一学習社様から委託を受けてAVCCは、株式会社タフ・ジャパン様と運動プログラムの映像撮影・編集業務を行いました。

(7) KK²事業運用関連

－ 1 自主企画プログラムと延べ参加者数

令和4年度は、自主企画でのプログラム開催、動画プログラム開発について90件、実施しました。プログラム開催の延べ参加者数は、リアルでのKK²会場での参加者が317名、リモートでの参加者が530名です。また、Webページ訪問者数は19,002名、動画視聴者/Web実施者が3,339名、合計延べ21,794名の方に参加・学習していただきました。

自主企画プログラムと延べ参加者数

プログラム内容	実施回数 および コンテンツ数	リアル 会場 参加者	リモート 参加者	属性内訳			Webページ 訪問者合計	Web訪問者内訳			動画視聴者数/ Web実施者	合計
				メンバー	Web会員	一般		PC	タブレット	スマホ		
A社会を生きる力を考える												
AVCC&KK2事業説明会/特別講演会	2	48名	355名	196名	207名		6,044名	4,303名	136名	1,605名	782名	7,229名
個人の「レジリエンス」を学ぶ												
「愛の見える化」から始める防災準備	1		23名	18名	5名		1,393名	1,168名	11名	214名		1,416名
KK2キャリア相談室	8		8名	0名	8名		1,365名	994名	22名	349名		1,373名
霞が関坐禅会	1	11名		2名	9名		376名	194名	9名	173名	27名	414名
組織・地域を担うしごと力を学ぶ												
しごと力向上ライブラリ	7						3,001名	2,210名	37名	754名	714名	3,715名
デジタルTERA小屋	1	12名	12名	14名	10名		685名	517名	8名	160名	685名	
デジタル活用力チェック	2						1,664名	1,394名	52名	218名	42名	1,706名
コンピテンシー・チェック	1						975名	437名	9名	529名	51名	1,026名
文化に親しみ交流する												
霞が関寄席	2	246名	132名	124名	171名	83名	3,499名	2,190名	50名	1,259名	216名	4,093名
江戸TOKYO散歩	65										822名	822名
合計	90	317名	530名	354名	410名	83名	19,002名	13,407名	334名	5,261名	3,339名	21,794名

－ 2 委員会・会議等の開催

① 連携会議の開催

KK2が入居する霞が関コモンゲートの霞が関 PFI株式会社とKK2事業連携会議を7月15日にKK2「スタジオ」で開催しました。令和4年度より、PFI事業の体制変更があり、新メンバーでの顔合わせと情報共有、今後についての議論、AVCCから事業・決算報告の説明を行いました。なお、[「PFIと霞が関ナレッジスクエア」](#)については、執筆者のAVCC理事 田中純一氏より説明を行いました。協議事項として「連携会議の開催（会議メンバー、開催頻度、内容）」、「大規模災害時における帰宅困難者等受入に関する協定」（千代田区）、「霞が関三丁目町会」の3点を議題としました。後日、PFI側の株主構成の変更についての情報提供をいただいております。今後の課題としてはAVCCとPFIとの協業体制（連携会議の開催概要）があります。

参加者（敬称略）

霞が関7号館PFI株式会社

- 園部 稔雄（東京建物(株)ビルマネジメント第一部長）
- 川上 直樹（東京建物(株)ビルマネジメント第一部ビル営業グループ グループリーダー）
- 近藤 健次（東京建物(株)ビルマネジメント第一部ビル営業グループ 担当部長）
- 蕪木 慎介（東京建物(株)ビルマネジメント第一部ビル営業グループ 担当部長）
- 沖本 文夫（(株)プライムプレイス 第一マネジメントセンター シアマネージャー）
- 平原 章次（日鉄エンジニアリング(株) 都市インフラセクター ポジエ外部 シアマネージャー）

7 臼倉 毅 (日鉄エンジニアリング(株) 都市インフラセクター プロジェクト外部 シニアマネージャー)

一般財団法人AVCC

- 1 久保田 了司 (一般財団 AVCC 理事長/KK²代表)
- 2 伊庭野 基明 (同上 理事/KK²グローバルキャリアカウンセラー)
- 3 田中 純一 (同上 理事/一般社団法人ビル減災研究所 代表理事)
- 4 山田 瑞恵 (KK²ゼネラルマネージャー)
- 5 畑山 奈緒美 (KK²チーフコンシェルジュ)

② KK²定例会開催

毎週水曜日にKK²定例会を開催し、事業全般について定期的に議論をしています。参加者は、久保田了司 (KK²代表)、伊藤健二 (KK²産学官連携主席研究員)、伊庭野基明 (KK²グローバルキャリアカウンセラー)、華井弘子 (エキスパート倶楽部ゼネラルマネージャー/7月末をもって退任)、事務局です。貸し出し状況やWebのアクセス状況、プログラム関連をテーマに取り上げています。令和4年度は41回開催しました。

- 2 メールマガジン「[メッセージ from KK²](#)」発行

毎週金曜日にWeb会員向けにメールマガジン「メッセージfromKK²」を発行し、KK²のプログラム紹介やお知らせを発信しています。巻頭言「メッセージfromKK²」は、「レジリエンス」「人と人の絆と地域再生」「キャリア」「学び」「食と文化」等をテーマにKK²事業と連動した内容となっており、週替わりで執筆しています。令和4年度は53回発行し平均開封率が25.44%でした(令和5年3月31日現在 購読者数16,893人、通巻で第779号)。なお754号より、レイアウトを改善しました。また令和4年5月発行号より、Amazon Polly (テキスト読み上げソフト) を使用して音声版を作成し、[KK²公式YouTubeチャンネルでの公開](#)を開始しました。

第5週は「KK²アドバイザーメンバー」に寄稿いただいております。4月29日発行号/3月10日発行号 秋田義一さん (AVCC 理事/一般社団法人 話力総合研究所 理事長)、7月29日発行号 山村由美子さん (積水ハウス株式会社 経営企画部 医療・介護事業戦略室 スペシャリスト) 9月30日発行号 野田弘子さん (AVCC 評議員/公認会計士/プロビティコンサルティング株式会社 代表取締役) 12月30日発行号 柴田文啓さん (長野県開眼寺住職)、2月10日発行号 古賀伸明さん (元連合会長) の方々に6回ご協力いただきました。

・主な執筆者 (5名) : 久保田了司 (KK²代表) /伊藤健二 (KK²産学官連携主席研究員) /伊庭野基明 (KK²グローバルキャリアカウンセラー) /華井弘子 (エキスパート倶楽部ゼネラルマネージャー) /山田瑞恵 (KK²ゼネラルマネージャー)

メールマガジン 開封率

開封率 平均 25.44%

配信日	発行	タイトル	担当	開封率
2023/3/31	779	「災害大国日本で考える、人権と尊厳」4/19開催 – 関東大震災から100年、正解のない時代を	山田	23.90%
2023/3/24	778	ChatGPT等のAI時代だからこそ、産学官の意義を考える	伊藤	26.45%
2023/3/17	777	「理性」のレベルアップ – 情報過多社会をどう生きるか? –	伊庭野	24.87%
2023/3/10	776	これからのValuable Communication	秋田 義一	25.09%
2023/3/3	775	「ポーっと生きてんじゃねーよ!」チコちゃんに叱られる!	久保田	25.99%
2023/2/24	774	2月公表「DX白書2023」からトランスフォーメーション、リスクリングを考える	伊藤	23.60%
2023/2/17	773	「デジタルTERA小屋」– 集団的学習 (コレクティブ・ラーニング) とKK2–	伊庭野	25.72%
2023/2/10	772	「終末時計」がついに最短に	古賀伸明	24.85%
2023/2/3	771	Society 5.0の次にどんな社会が来るのか? –との質問にどう応えますか? –	久保田	28.81%
2023/1/27	770	レジリエントに生きましょう! – 防災準備・ダイバーシティ・坐禅 –	山田	28.27%
2023/1/20	769	「万物に神々が宿る日本で」– デジタル社会をどう生きるか –	伊庭野	28.19%
2023/1/13	768	年始恒例の箱根駅伝等からも、自分や組織を喚起する根源を考える1月へ	伊藤	29.27%
2023/1/6	767	立派な門松で新年を祝う デジタル公民館まっさきのレガシー	久保田	27.09%
2022/12/30	766	現代社会は、宗教が必須	柴田 文啓	27.46%
2022/12/23	765	現在「データ活用力」平均1.5点! – あなたの「デジタルしごと力」を確認してみませんか –	山田	24.73%
2022/12/16	764	変わる世界の景色? – 「ITとグローバル化」から「デジタル社会で生きる日本人」へ –	伊庭野	24.03%
2022/12/9	763	テクノロジーがみせる、諦めない日本代表による、1mm以下の世界!	伊藤	23.76%
2022/12/2	762	誰も置き去りにしないデジタル社会へ	久保田	23.63%
2022/11/25	761	「この資料、急ぎで仕上げてください?」 – あなたなら、どう答えますか? –	山田	25.37%
2022/11/18	760	この50年、社会のデジタル化と私 – そして、KK2との出会い –	伊庭野	26.94%
2022/11/11	759	リスクリングを考える4大臣賞受賞者も含めた130以上の講演!	伊藤	27.03%
2022/11/4	758	Valuableなコミュニケーション by KK2のご紹介	久保田	27.70%
2022/10/28	757	マイナンバーカード? あなたのデジタル活用力をチェック!	山田	26.63%
2022/10/21	756	KK2メッセージは時代トピックを届けられたか? – 各年10月掲載の過去号 –	伊庭野	26.78%
2022/10/14	755	学び直し/リスクリングして成果をだす2歩とは? 文部科学省でのリスクリングの調査結果?	伊藤	26.99%
2022/10/7	754	雲を突き抜けたその先に、青空が広がっています	久保田	27.56%
2022/9/30	753	ダイバーシティとは自分を問うこと – だからこそ宗教・哲学が求められている –	野田 弘子	27.21%
2022/9/23	752	すぐ行動を起こした人は何人か – 「愛の見える化」から始める防災準備 –	山田	26.81%
2022/9/16	751	55人の「エキスパート・スタジオ」 – 幅広い職種と世代のキャリアを学ぶ –	伊庭野	26.42%
2022/9/9	750	最近始まった新しいコミュニケーションはありますか? 他組織の事例は?	伊藤	26.28%
2022/9/2	749	「地震の時は竹やぶに逃げる」 関東大震災から99年!	久保田	26.42%
2022/8/26	748	音声版「メッセージfromKK2」はじめました	山田	25.48%
2022/8/19	747	日本人の心のレジリエンス – 変化を乗り越え先へ進む力 –	伊庭野	24.51%
2022/8/12	746	今年が元年と言われる「人的資本投資」とは? おかげさま?	伊藤	23.85%
2022/8/5	745	突き刺さった一言、「こんなことしていると、人間は滅びます。」	久保田	24.19%
2022/7/29	744	介護で後悔しないための家族との対話	山村由美子	22.92%
2022/7/22	743	夏こそ日本の白ワインを! – 各地に広がる日本のワイナリーから –	草井	23.86%
2022/7/15	742	「どう生きるか?」をどう考えるか? – KK2キャリア相談室をご利用ください –	伊庭野	25.25%
2022/7/8	741	コロナ禍の実践を踏まえた、「次の一歩」への整理を進めるために? 「七夕の夜空の衛星?」	伊藤	23.84%
2022/7/1	740	「7月7日、晴れ」 – 生き方を見直す時! –	久保田	25.84%
2022/6/24	739	いざという時の備えはできていますか? – そこに「愛」はあるか? –	草井	23.93%
2022/6/17	738	日本はアジアのスイスを目指すか? – 観光&防災立国という国のかたち –	伊庭野	26.50%
2022/6/10	737	今だからこそ考える、対面のセミナーにおけるデジタル活用チャレンジ?	伊藤	24.23%
2022/6/3	736	日本が迎える、デジタル社会の未来予想図は?	久保田	23.87%
2022/5/27	735	多様性を認める社会へ – みんなちがってすてきな –	草井	24.04%
2022/5/20	734	「コミュニケーション新時代の5月病は?」 – エキスパート達は どう乗り越えた –	伊庭野	23.89%
2022/5/13	733	2021年比2.5倍稼働にもなったゴールデンウィーク! 幸福度/ウェルビーイングを高める「因子	伊藤	24.02%
2022/5/6	732	GW中に見た夢! 15,000公民館でデジタル公民館®活動を!!	久保田	24.28%
2022/4/29	731	「コミュニケーション新時代」生涯をかけてコミュニケーション能力を磨こう!	秋田 義一	22.69%
2022/4/22	730	多様な人達の多様な働き方から生まれるWell-beingとは – みんなが主役の時代へ –	草井	22.79%
2022/4/15	729	「キャリア相談室」はハイブリッドへ – オンラインと対面で –	伊庭野	24.50%
2022/4/8	728	幸福度/ウェルビーイングを高める共同体感覚を醸成する機会?	伊藤	23.55%
2022/4/1	727	ウクライナ国民、そして人類におくる言葉『雲外蒼天』	久保田	26.63%

－ 3 情報発信（Webサイト、SNS等）

① KK² Webサイト、SNS

KK²Webサイトは、学びのサイトとして運営し、「教育DX」の推進の場としても活用しています。KK²では「KK²会場」「ライブ配信」「オンデマンド視聴」で学べる機会を用意しています。自主企画プログラムは、収録を行いWebプログラムとして公開、いつでも誰でも無料で学べる環境を提供し、令和4年3月31日現在1,913本の動画プログラムを公開しています（無料）。スマートフォン、タブレットにも対応しています。令和4年7月より「[字幕あり](#)」タグを新設し、字幕対応の動画プログラムの検索機能を向上しました。

また、より多くの方にKK²の情報をお届けするためにSNS（Facebook、YouTube等）を活用した情報発信も行っています。YouTubeでは、プログラム動画の一部を公開し、KK²Webサイトへ訪問いただくように推進しています。

- ・ KK²webサイト <https://www.kk2.ne.jp/>
- ・ KK²公式Facebook <https://www.facebook.com/KK2kasumigaseki/>
- ・ KK²公式YouTubeチャンネル <https://www.youtube.com/@KK2>
- ・ KK²公式Twitter <https://twitter.com/KK2Kasumigaseki>

② 文部科学省「マナビィ・メールマガジン」情報連携

平成30(2018)年7月より、文部科学省総合教育政策局が発行する生涯学習関連情報を発信する「マナビィ・メールマガジン」に定期的な記事掲載をしています。毎月2回（8日/24日発行）KK²のプログラムをご紹介します。令和4年度は22回掲載していただきました。

「マナビィ・メールマガジン」
<https://www.mext.go.jp/magazine/backnumber/1263046.htm>

配信日	記事タイトル
2022/04/08	18歳でクレジットカードを作るその前に！ 動画で学ぼう「知るべきお金・就活のこと（主に10代～20代向け）」
2022/04/24	◆新作動画◆「日本をこう変える」著者 松田学氏を囲むクロストーク
2022/05/08	休刊
2022/05/24	◆おすすめ動画◆ビジネスパーソンのための情報セキュリティ基礎講座
2022/06/08	◆新作動画◆しごと力を高めるビジネスコミュニケーション磨き 7つの極意
2022/06/24	◆おすすめ動画◆就職活動って何年生から何をすればいいの？
2022/07/08	◆おすすめ動画◆40歳からの結晶性能力の伸ばし方
2022/07/24	◆参加受付中◆8/23「どう生きるか」

2022/08/08	◆おすすめ動画◆「今こそ知っておきたい「仕事に役立つ会計の基本」」「仕事に役立つ会計の基本 ～管理会計入門編～」？
2022/08/24	◆おすすめ動画◆ 「愛の見える化」から始める防災準備 ～家族・隣人・地元とのつながり強化で命を守る～
2022/09/08	◆新作動画◆8/23「どう生きるか」
2022/09/24	◆おすすめ動画◆「帰宅困難者問題を考える」
2022/10/08	◆おすすめ動画◆「デジタル活用力チェック」「基礎から学ぶ 仕事に活かすインターネット」「しごとがはかどるエクセル活用術」
2022/10/24	◆おすすめ動画◆「長寿社会に生きる」
2022/11/08	◆おすすめ動画◆現場でリーダーシップを発揮するために必要な10項目
2022/11/24	◆おすすめ動画◆あなたらしさとは ～強みの構造～
2022/12/08	◆おすすめ動画◆AI社会に求められるしごと力 ～行動力コンピテンシーの基礎と実践～
2022/12/24	休刊
2023/01/08	◆おすすめ動画◆霞が関坐禅会 ～自分自身と向き合ってみよう～
2023/01/24	◆おすすめ動画◆第32回 やねだん故郷創世塾で霞が関からリモート講義「自ら考え行動するデジタル人材を育む」
2023/02/08	◆おすすめ動画◆あなたの「話力」でビジネスコミュニケーション力UP！
2023/02/24	◆おすすめ動画◆従業員満足（ES）の基本を学ぶ ～働きがいのある職場づくりのために～
2023/03/08	◆おすすめ動画◆新ビジネスパーソン必見！大丈夫？あなたのことばづかい
2023/03/24	◆新作動画◆デジタルTERA小屋～野田弘子さん～

－ 4 オンラインイベント支援事業

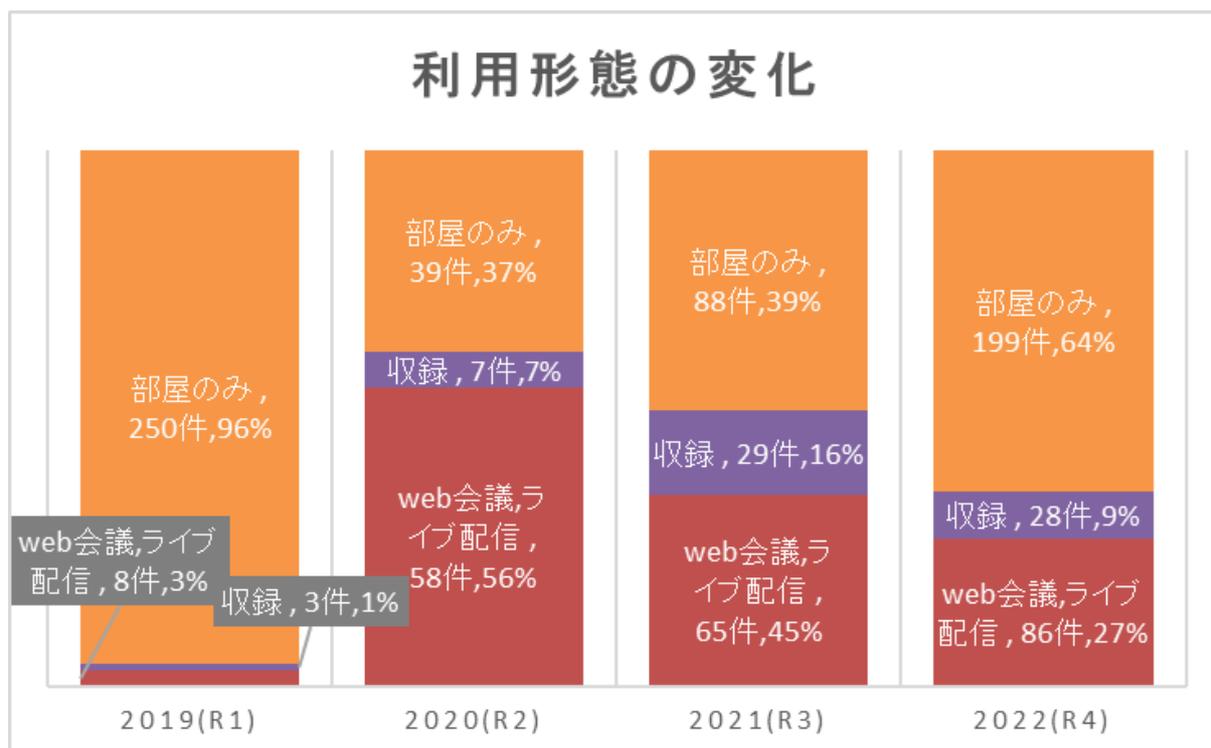
令和4年度は、スタジオ219回、ラウンジ92回(11月よりリニューアルオープン)の施設貸出を行い、エキスパート倶楽部のランチ利用者を含め、延べ11,405名の方にご利用いただきました。サービスの提供においては引き続き「[KK²新しい生活様式](#)」[ガイドライン](#)に則って安全を第一に行いました。また、行動が制限される中、周りの環境に左右されることなく24時間365日会場見学ができるよう、[360°カメラを撮影した3Dバーチャル見学ページを制作いたしました。](#)

オンライン・施設貸出サービス状況

	スタジオ					ラウンジ			エキスパート倶楽部			KK ² 施設利用者数合計
	利用者数計	KK ² 主催事業参加者	会場参加 レンタルスペース/	オンライン レンタルスペース/	貸出回数	レンタルスペース利用者	貸出回数	利用者数計	ランチ利用者	レンタルスペース/パーティ	貸出回数	
令和4年度	7,820名	836名	2,173名	4,811名	219回	616名	92回	2,969名	2,869名	100名	3回	11,405名
令和3年度	13,143名	1,194名	1,963名	9,986名	182回			2,015名	2,015名	0名	0回	15,158名

※協賛プログラム参加者、カウンセリングプログラムは、KK2主催事業に含む

令和2年度に「講演・研修・セミナー」をオンラインで実施できる設備を整備し、ライブ配信やDPP、Web会議を活用した双方向を実現するオンライン会議・セミナー・授業等、無観客イベントの開催などの利用実績が増えています。令和4年度のKK²施設・サービス利用のうち、ライブ配信やWeb会議等オンラインでのご利用は約30%となっています。



オンラインサービスは、霞ヶ関近隣の省庁（厚生労働省、環境省、総務省、文部科学省ほか）を中心にご利用いただいております。会場参加とリモート参加が混在するハイブリッド形式のオンラインイベント（会議や委員会）は、音声のハウリングなどトラブルや、リモート参加の講師などのWeb会議操作のトラブルなども多いため、KK²の設備とスタッフのトータルなサポートを有効に活用いただいております。また、令和4年11月より、ラウンジもハイブリッド会議の設備を整えリニューアルオープンしました。

スタジオ・ラウンジの活用例

スタジオ(ご利用-1) **【登壇者4人クロストーク】**

リアル80人+オンライン500人=ハイブリッドセミナー

KK²コンシェルジュが技術サポート

登壇者のトークをLIVE配信

参加者が問いに答える、登壇者にいつでも質問することができます

問い:「あなたはIoTを理解していますか?」
1. 理解していない
2. あまり理解していない
3. ある程度理解している
4. 理解している
5. 他者に説明できる

回答分布がリアルタイムに表示されます

DPP*

活気あふれる参加型セミナー!

参加者【LIVE配信】

リアル・オンライン参加者アンケートをPDFで即座に自動グラフ集計 ※CSV抽出も可

* DPPは講師、リアル参加者、オンライン参加者、全員が互いに学び合う「双方向型の学びを支援」するツールです。

アンケート回答、質問は匿名で表示

スタジオ(ご利用-2) **【ハイブリッド委員会】**

リアル参加委員12人+オンライン参加委員10名+傍聴者100名

発言者追尾360度カメラ
個別マイク(ON/OFF付)

全委員によるオンライン議決が可能です (DPP*)

傍聴者【LIVE配信】

KK²スタジオ: 座長+委員11名+事務局数名
Web会議: オンライン参加委員10名
LIVE配信: 傍聴者100名

KK²コンシェルジュがサポートします

ラウンジ **【ハイブリッド社内会議】**

リアル10人+オンライン8人=ハイブリッド会議

ラウンジ+リモート勤務者=ハイブリッド会議

Web会議∞TV会議=ハイブリッド会議

こんなことができます

リモート勤務者

Polycom

zoom

Microsoft Teams

Google Meet

webex by CISCO

－ 5 KK²メンバー制度（協賛メンバー、Web会員）

① 協賛メンバー数

協賛メンバー数は入会2団体、退会2団体で31団体となりました。法人メンバーは2団体です（法人メンバーの新規募集は令和3年3月末で終了）。

●協賛メンバー様（順不同）

株式会社関電工
池上通信機株式会社
株式会社大塚商会 千代田支店
帝人株式会社
株式会社メディアリンク
株式会社久米設計
三喜工業株式会社
霞が関7号館PFI株式会社
株式会社毎日映像音響システム
株式会社日刊工業新聞社
全日本空輸株式会社/株式会社ANA総合研究所
日本生命保険相互会社
公益財団法人松戸市文化振興財団
一般社団法人行政情報システム研究所
エムズホールディングインターナショナル株式会社
特定非営利活動法人日本不動産カウンセラー協会
公益社団法人ユニバーサル志縁センター
ニッセイ保険エージェンシー株式会社
アデコ株式会社
リコージャパン株式会社
大星ビル管理株式会社
株式会社ヒガシトゥエンティワン
株式会社健康保険医療情報総合研究所
高周波熱錬株式会社
星光ビル管理株式会社
一般社団法人プラチナ構想ネットワーク
株式会社デジタルフォルン

●アカデミック協賛メンバー様（順不同）

愛知大学
大阪大学エマージングサイエンスデザインR3センター

メンバー種別

メンバー種別	メンバーの種類	年会費（税込）
協賛メンバー	民間企業・各種団体	一口132,000円/年、一口以上
	NPO法人	一口66,000円/年、一口以上
	大学・専門学校	一口66,000円/年、一口以上
Web会員		無料（登録制）

メンバー数	協賛メンバー			法人メンバー	Web会員
	民間企業・各種団体	NPO法人	大学・専門学校		
令和4(2022)年度	31	27	2	2	23,825
令和3(2021)年度	31	26	2	3	21,793

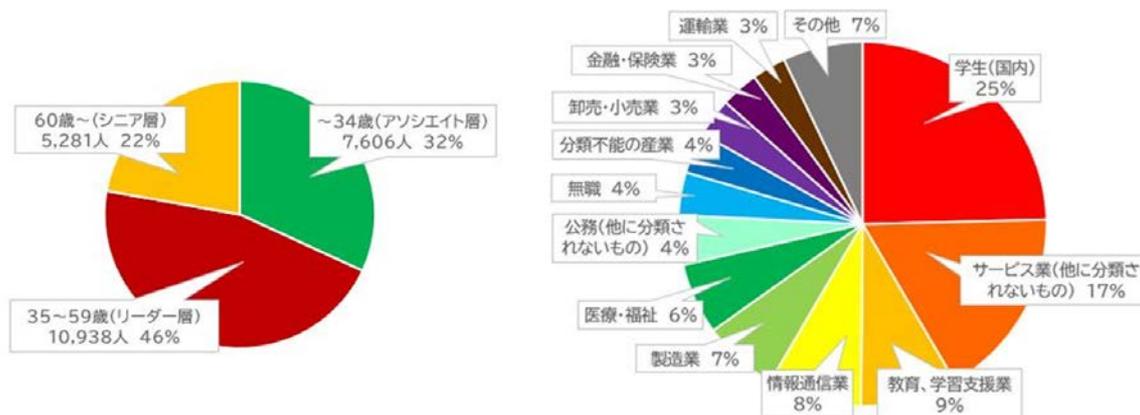
なお、AVCCと相互協力協定（MOU）を締結している団体は以下のとおりです。KK²事業にも多方面でご協力をいただいております。（順不同）

- [一般社団法人 長洞元気村](#)
- [社会福祉法人 スマイリング・パーク](#)
- [社会福祉法人 むそう](#)
- [NPO法人「居場所」創造プロジェクト（居場所ハウス）](#)
- [やねだん自治公民館](#)
- [一般社団法人 話力総合研究所](#)
- [株式会社タフ・ジャパン](#)

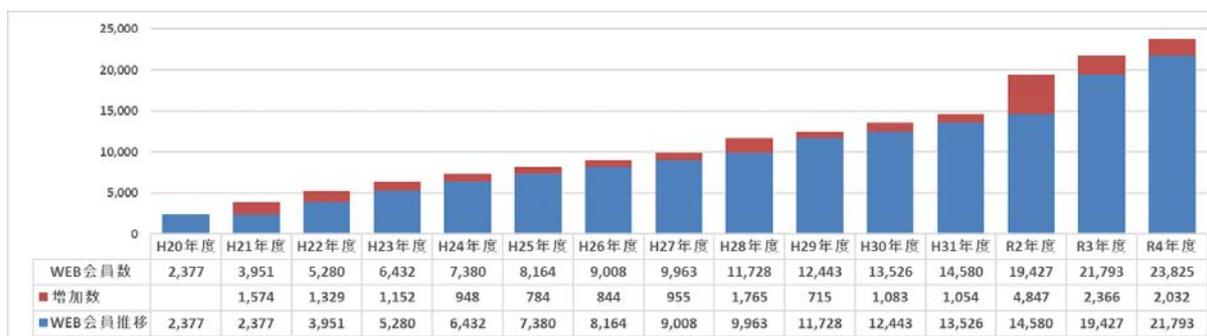
②Web会員数

KK²Web会員登録者数は23,825人、年代ではアソシエイト（～34歳）が32%、リーダー（35歳～59歳）が46%、シニア（60歳～）が22%となっています。学生、サービス業、教育・学習支援業、情報通信業、製造業、医療・福祉、公務等、多様な職種の方々に学んでいただいております。

令和4年度 Web会員属性 (23,825名)

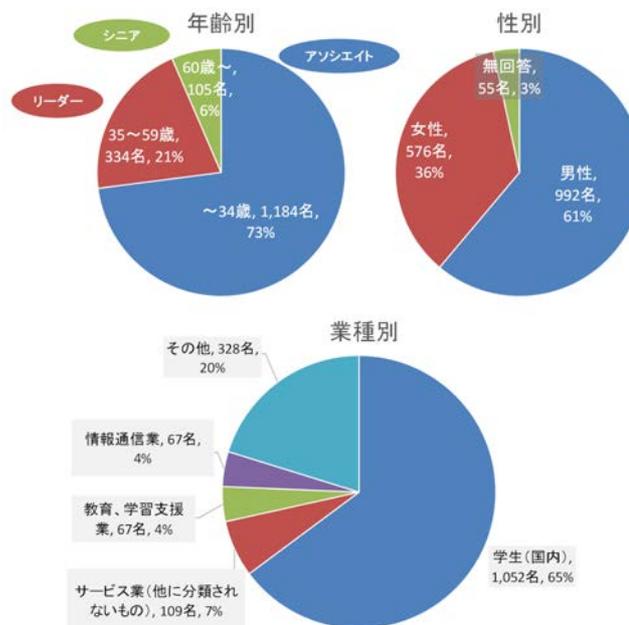


Web会員登録者数は、例年1,000名前後の増加でしたが、令和2年度のコロナ禍以降は増加傾向となっております。令和4年度は2,032名の増加となりました。



Web会員数と増加数 (年度別)

新規登録者の属性は右図となります。全体の属性と比較すると65%が学生となっており、年齢別でもアソシエイト層が73%となっています。DPPを大学の授業で活用いただいていることが主な要因と推察されます。



Ⅲ 地域・社会サービスのデジタル化を支援

(前 段)

社名変更により「高度な情報提供」だけでなく、「高度で価値のあるコミュニケーション (Advanced Valuable Communication) 」を創造・提供する団体に生まれ変わろうとしています。

地域・社会サービスのデジタル化を支援する事業計画自体に変更はありませんが、有線 (CATV網やインターネット回線等) ・無線 (防災行政無線や多重無線設備等) 問わず、通信インフラの設計においても、それら通信網を利用したより高度なコミュニケーションを提案・支援することとなります。

急速なデジタル化の進展ともない、民間企業だけでなく自治体や私たちを取り巻く社会全般においてもDXをはじめとした、大きな変革をもたらしています。私たちAVCCは、デジタル社会の推進及び支援におけるリーディングカンパニーになるよう、今まで以上に日々の研鑽に勤めなければならないと考えています。

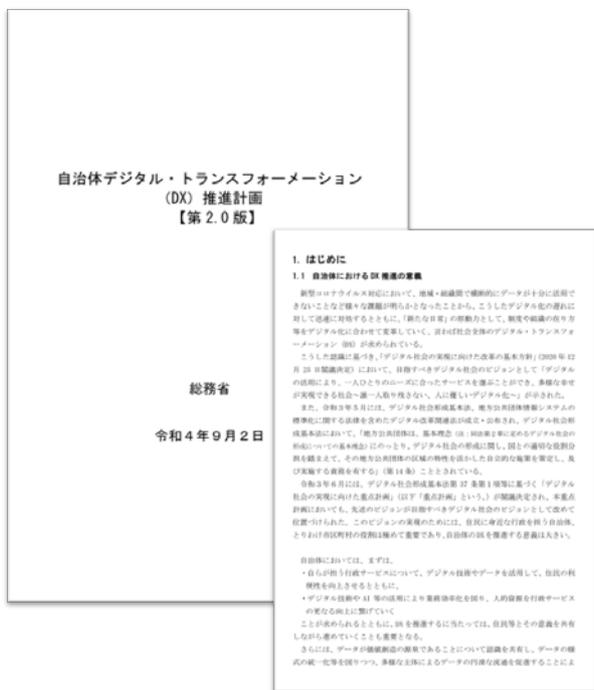
一方、あまりに急激に変革した社会環境に追いついて行けない、いわゆる「情報弱者」と言われる方たちに対しても支援の手を差し伸べ、全ての人々がデジタル化によるメリットを享受できる社会となるよう「地域・社会サービスのデジタル化を支援」致します。

(1) 自治体DX推進支援

国や自治体では、令和2年12月に総務省が策定した「自治体デジタル・トランスフォーメーション (DX) 推進計画」に基づきDXを進めています。

同計画の策定以降、政府 (内閣府) においては、新たに「デジタル田園都市国家構想」を掲げるなど、自治体DXに関連する様々な動きがあり、令和4年6月には、「デジタル社会の実現に向けた重点計画」や「デジタル田園都市国家構想基本方針」が閣議決定され、政府としての方針が示されています。

これらを踏まえ、令和4年9月、同計画について、「自治体デジタル・トランスフォーメーション (DX) 推進計画【第2.0版】」として改定を行いました。



AVCCにおいても、これら自治体DXの最新事例等について、検証及び調査するとともに、「デジタル田園都市国家構想」については、防災分野の先進モデル構築を目指す自治体に対し、自治体の補助金申請に係わる構想や概算費用算出等の作業の支援を行っています。



令和4年度受注し、現在進行中の東京都下水道局の件名では、都内下水道局が管理する浄水場やポンプ場等で使用する内線網をPHSからsXGP（LTE）へ更新するための設計業務を行っております。PHSのサービス終了に伴う更新設計ですが、従来の音声やFAX通信だけでなく、スマートフォンやタブレット端末で撮影した画像等も速やかに送れるようにし、業務の効率化を図ることを目的としています。令和5年は、「砂町水再生センター」の設計を行っていますが、令和6年度以降、都内20か所の水再生センター（区部13か所、多摩地域7か所）の内線網更新設計を順次行う予定です。



(東京都下水道局HPより)

また、AVCC内の高度なコミュニケーションを活性化するため、定例報告会（全体会議）においてKK²のスタジオとWeb会議を利用し、リアルな会場とオンラインによる全国の地方事業所とのハイブリッド会議を行うようにしました。また、その際は演台での報告を行うようにし、各人のプレゼンテーション力の向上にも努めています。

自治体等へのデジタル化・DX等を提案・支援するにあたり、まず私たちが高度なコミュニケーションを行えるスキルを身に着けることがこれから必要と考えています。

(2) システムコンサルティング業務

－ 1 総合防災システム構築支援

兵庫県姫路市において、防災センター設備の老朽化に伴う新防災情報システムの設計業務を行っています。

姫路市の防災センターは、市の消防本部庁舎としての機能に加え、広く市民に防災意識の啓発を行う防災学習体験施設としての機能を合せ持つ施設として平成19(2007)年3月に竣工しました。



(姫路市防災センター)

既設の災害時の情報管理を行う防災情報システムは防災センター竣工当時より導入しており、情報共有モニターや音響設備の老朽化や防災情報システム有する機能の見直し等が必要とされてきました。

今回の更新に伴う設計においては、情報の収集から情報共有、住民への情報配信をシームレスに行うことと、住民への避難指示等をシステム上からサポートする最新機能の導入をポイントとしています。

姫路市新防災情報システム運用イメージ

「より迅速に正確な情報収集を行い、意思決定の高度化を図れるシステム」とし、防災情報の収集手段、配信の充実強化を図ります。



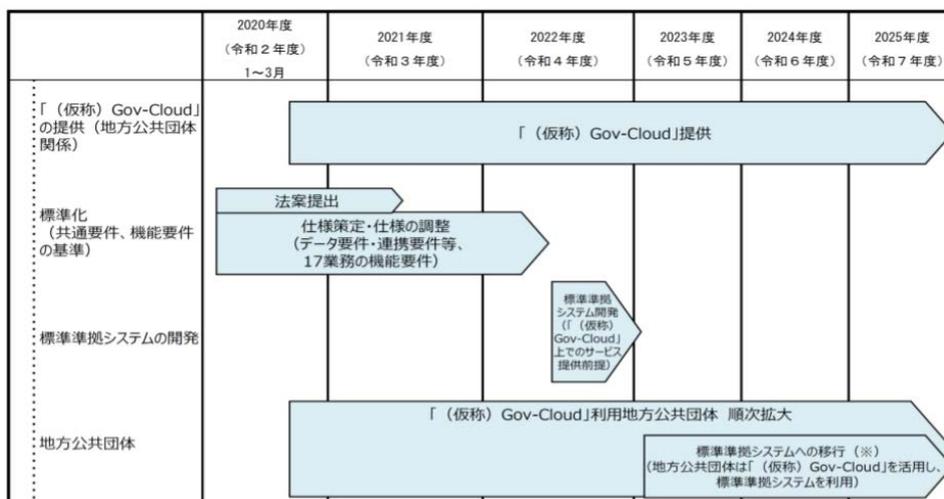
震度計情報や河川の水位情報、屋外カメラ等からの映像情報を防災センターの防災情報システムで集中管理し、災害に係わるような一定の閾値に達すると同システムを通じて関係者にアラートを発する機能を有しています。

また、住民への速やかな情報配信機能として市のホームページ（ひめじ防災WEB）や、県の防災情報システムを通じての情報提供が行える機能も有しています。

令和4年度は、設計支援業務を行いました。令和5年度は業者選定業務、来年度は構築監理業務を実施する予定です。

－ 2 業務システム最適化支援

デジタル庁が推進する地方自治体を含めた共同クラウドシステムを利用したいいわゆる「ガバメントクラウド」ですが、令和7年度末が期限となっているものの、昨年度は各人口規模に合わせた実証実験（先行事例モデル）が中心となっています。



(デジタル庁ホームページより)

AVCCにもガバメントクラウド移行に対する問い合わせがあり、ヒアリングを行いました。現時点では共同クラウドシステムの対象となる20業務を運用保守するメーカーやベンダーが中心となって移行計画を進める模様です。

とは言え、周辺システムやネットワークへの影響も考えられるため、自治体システム全体を俯瞰する立場から業務最適化について提案する準備は必要と考えます。

－ 3 地域情報化計画策定支援

令和3年度に引き続き、つくばみらい市において地域情報化計画の策定を行っております。本計画はIoTによる地域課題の解決等を盛り込んだ「官民データ活用推進計画」としても利用できるように策定しました。

本計画の策定にあたっては、情報担当課との係わりだけでなく、住民の情報化の状況や要望等を取り入れるための住民アンケートや市内各課情報担当者へのヒアリングを実施することで、つくばみらい市の情報化推進を広い視野から検討し計画化しました。

情報化計画は以下の章立てで策定しました。

- 第1章 計画の概要
 - ・計画の目的や期間、実施体制等
- 第2章 社会環境の変化による情報化への影響
 - ・DX、デジタルデバイド、コロナウィルスの影響、Society5.0、SDGs等をテーマごとに整理
- 第3章 国・県の動向及び本市の現状
 - ・国、県、市の情報化に対する状況整理
- 第4章 調査結果
 - ・住民アンケート調査結果報告と課題整理
- 第5章 本市の情報化の方針
 - ・現状の整理と情報化の方向性を提示
- 第6章 情報化施策
 - ・デジタル化による行政サービスの向上項目及びデジタル化による行政運営の効率化に関する項目を施策単位で提示
- 第7章 推進体制
 - ・計画の推進体制やスケジュール等



－ 4 教育・文化施設等における情報システム構築支援

(GIGAスクール構想推進支援/学校における情報セキュリティ対策支援)

GIGAスクール構想に基づいた構内ネットワーク環境の構築や端末の整備は終わり、今後はこれらを活用するための運用方法が重要になってきています。

デジタル教科書などのソフト環境の整備は各地で行われていますが、それを活用する教職員のセキュリティ意識の向上や運用ルールの整備が課題になっています。

AVCCでは、千葉県において学校情報セキュリティに関する管理策の改定支援や、県立学校における情報セキュリティに関する外部監査を実施し、学校ごとの具体的な管理策に対する実施状況の確認や、セキュリティ意識の現状について確認・報告を行いました。

近年の情報化による教員一人一台PCの整備や、国のGIGAスクール構想による学校のICT環境の急速な進展など、情報セキュリティを取り巻く環境が変化するなか、地方自治体が管轄する学校の情報セキュリティ対策に関する外部監査を実施しました。

併せて、国や都道府県の教育情報セキュリティ対策のガイドライン改定に伴って、学校における情報セキュリティに関する管理策（セキュリティポリシー、手順書等）の改定支援を行いました。

－ 5 消防指令台システム更新支援

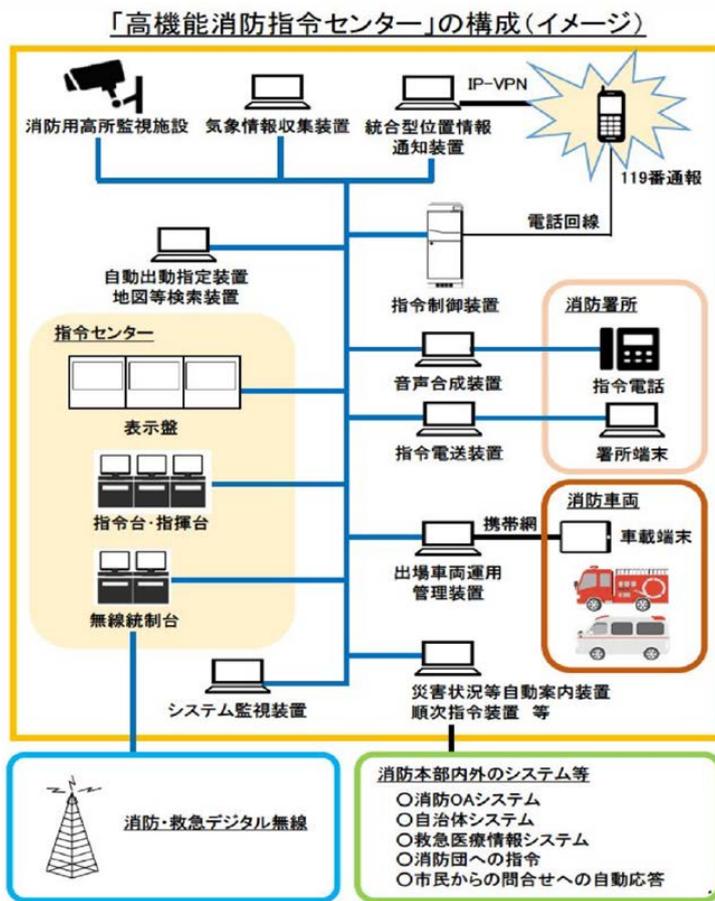
島根県浜田市消防本部の高機能消防指令台システムへの更新に伴う実施設計を行っています。

設計にあたっては、安全性・高信頼性を第一として、119受信及び指令発出等指令業務が確実に遂行できるシステム構成、指令回線等のバックアップ、二重化、障害発生時の代替システム等を考慮した設計、仕様書の作成を行っています。

本設計では、通常は音声合成・指令伝送・位置情報通知等々の機能を個別システムで構成するのですが、同一パッケージで構成することで、費用を抑える設計を行いました。



※浜田市消防本部 高機能消防
指令センター（現況）



－ 6 防災行政無線コンサルティング

災害時等における住民情報提供の要となる防災行政無線の設計及び工事に伴う施工監理業務を行っています。

これまで同報系システムは、アナログシステムのデジタル化設計がほとんどでしたが、先行してデジタルシステムを導入した自治体は15年以上経過してきているため、今後はデジタルシステムの更新業務も想定されます。

また、移動系システムについては、自営でシステムを構築する他に、MCAやIP無線を活用した民間のサービスを利用する自治体も増えて来ています。特に都心部においては、ビル等による電波受信環境を疎外する要因が多いため、複数システムやサービスを組み合わせた設計が必要と考えています。

【同報系防災行政無線 設計業務】

- ・愛媛県松野町（調査検討）
- ・長崎県波佐見町（基本設計）
- ・宮崎県美里町（基本設計）
- ・東京都墨田区（追加実施設計）
- ・東京都あきる野市（追加実施設計）

- ・静岡県三島市（実施設計）
- ・神奈川県川崎市（追加実施設計）
- ・山口県周防大島町（実施設計）
- ・福岡県みやこ町（実施設計）
- ・熊本県上天草市（実施設計）
- ・長崎県波佐見町（実施設計）

【同報系防災行政無線 施工監理業務】

- ・北海道恵庭市
- ・東京都墨田区
- ・東京都府中市
- ・東京都八丈町
- ・東京都あきる野市
- ・長野県阿南町
- ・長崎県波佐見町
- ・鹿児島県瀬戸内町

その他、東京消防庁

－ 7 自治体ネットワーク・CATVコンサルティング

地方自治体では、人口減少や組織統合等に伴うネットワーク構成の変更が生じたり、設備の老朽化に伴う更新が必要な状況が生じています。AVCCでは、このような設備やシステム、ネットワークの更新に伴う、地方自治体が発注する工事や業務委託に関する発注図書作成や、構築時の監理業務を行いました。

また、地方自治体や第三セクターが運営するCATVにおいても、自治体を取り巻く環境の変化や設備の老朽化に伴い、今後の運営方針策定の支援、受信設備の設計、運営事業者を選定するための支援を行いました。

（3）情報セキュリティコンサルティング業務

－ 1 ICT部門における業務継続計画（BCP）作成支援

近年では、自然災害や物理的なテロ等による地方自治体の業務停止だけでなく、情報セキュリティ事故やランサムウェアをはじめとするサイバーテロによって業務が停止してしまうという事案が発生しています。これらの情報セキュリティ対策として、地方自治体ではCSIRT（Computer Security Incident Response Team：インシデント発生時に対応するチーム）は多くの自治体で組織されていますが、実際にインシデント発生時に迅速に対応するためには、日ごろの訓練が必要になります。

AVCCでは、事案発生時にCSIRTが適切に対応できるための訓練に関する支援を行いました。訓

練シナリオを作成し、訓練時にはファシリテータを務め、CSIRT構成職員に助言を行うことで、訓練を効果的に実施するための支援を行いました。

－ 2 ISMS構築及びISO27001、プライバシーマーク（JISQ15001）認証取得支援

令和4年度は、ISO27001認証取得団体における、継続的なPDCAサイクル運用のための各種支援を行いました。日々の運用における問い合わせ対応のヘルプデスクのほか、各規程文書の更新支援、内部監査、各種研修等のコンサルティングを行いました。

青森県、長野県、山梨県、愛媛県の国民健康保険団体連合会において上記のような運用支援を行っており、今後も他県の同様団体への支援を行ってまいります。

また、民間企業におけるプライバシーマーク（JISQ15001）の認証取得に向けた支援を行いました。ISO27001認証取得支援同様、規程文書類の整備、内部監査、研修資料の作成等、プライバシーマーク認定審査支援を行っている実績を生かし、効果的な支援を行っています。

－ 3 情報セキュリティ監査

地方自治体において、法改正や自治体を取り巻く環境の変化に対応した、情報セキュリティに関する管理策（セキュリティポリシー、手順書等）の改定支援や、外部監査を行い、情報資産や個人情報を守るために適切な対策がとれているかを外部の第三者としての目線による確認・支援を行いました。

外部監査においては、監査チェックリストの作成、監査の実施、監査報告書の作成、報告会の実施を行いました。検出された不具合事項については改善案を提示し、より適切な管理が行えるよう助言を行いました。監査結果については、被監査部門特有の監査結果だけでなく、当該自治体全体として対応が必要になるとと思われる項目については、共通的な対応策を策定する支援を行っています。近年では、外部委託や外部サービスの利用に関するセキュリティ対策の重要性が高まっており、これらを監査項目に加えることで、より効果的な監査を実施しています。

内部監査の支援も実施し、監査チェックリスト作成に関する助言、監査実施後の評価に関する助言を行いました。

また、監査を実施していない部門も含めた職員に対するアンケート調査（自己点検）の実施を支援し、職員の情報セキュリティに対する意識調査を行いました。また、外部監査の一環として、標的型メール訓練、Webサーバへの侵入試験を実施しました。

－ 4 特定個人情報監査

特定個人情報の取扱いに関する内部監査の支援、外部監査を実施し、特定個人情報（マイナンバー（個人番号）をその内容に含む個人情報）を適切に取り扱うための方策がとれているかを外部の第三者としての目線による確認・支援を行いました。自治体が定める管理基準や、公開されている特定個人情報保護評価（PIA）に基づき、助言型監査を実施しました。監査においては、監査チェックリストの作成、監査の実施、監査報告書の作成、報告会の実施を行いました。

－ 5 情報セキュリティ/個人情報保護等研修支援

情報セキュリティ運用支援の一環として、地方自治体や関連団体における研修を実施しました。一般職員向け研修から幹部職員研修、特定個人情報を取り扱う職員向け研修等、職位や取り扱う情報に応じた研修を行いました。

研修方法としては、集合研修、Web会議システムを活用したオンラインによる研修、録画映像によるオンデマンド研修等、お客様のニーズに併せた方法で実施しています。

内部監査員の研修においては、ロールプレイングを行い、模擬監査を通じて監査のやり方確認することで、監査員の理解を深めるという取り組みを実施しました。

－ 6 プライバシーマーク認定審査支援

一般財団法人日本情報経済社会推進協会(JIPDEC)及び一般財団法人放送セキュリティセンターが行っている個人情報を適切に取り扱っている組織を一定の基準で認定し、プライバシーマークの使用を許諾する制度に係る審査業務を支援しました。

(4) 新規業務（テレポーサイ・サービスの開始に向けた実証実験について）

～誰一人取り残さないデジタル社会実現のため、AVCCができること～

◆テレポーサイ・サービス

デジタル弱者支援として、テレポーサイ・サービスのサービス提供に向けた準備を進めてきました。

現時点では、サービスの安定した提供を行えるよう、サーバープログラム及び専用端末の見直し等を社内テストを中心に行っております。

スケジュールでは、自治体様による実証実験を行う時期としていましたが、2か月程度遅れており7月開始を想定しています。

今後も安定したサービス提供に向けた開発を進めるとともに、量産化した際のコスト検討や運用保守体制整備を進める予定です。



(最新専用端末イメージ (モニタ部 5 インチ))

IV デジタルイノベーション部

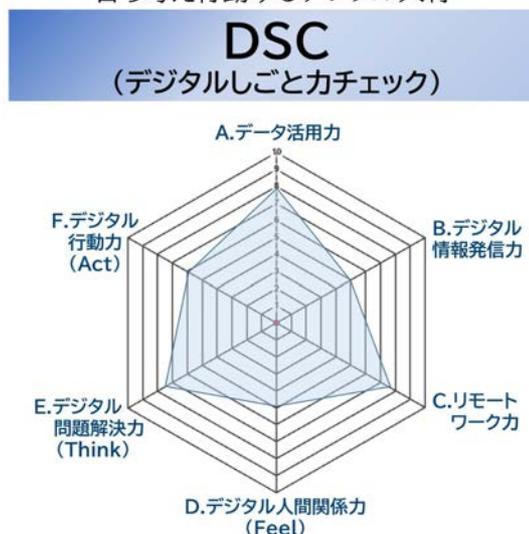
(1) デジタル活用力チェック(DKC)・デジタルしごとカチェック (DSC)の提供

令和3年9月にDPPの機能として「チェックシート機能」を『デジタル活用力チェック (DKC Ver.2.0)』として正式にリリースしました。

令和4年度は、デジタル社会で求められるしごと力を、「A.データ活用力」「B.デジタル情報発信力」「C.リモートワーク力」「D.デジタル人間関係力」「E.デジタル問題解決力」「F.デジタル行動力」の6項目にまとめ、単に各人がセルフチェックをするだけでなく、そのスコアに応じて推奨する学習教材を提示する仕組みとなっており、チェック後に各人が自学自習できるものとなっています。

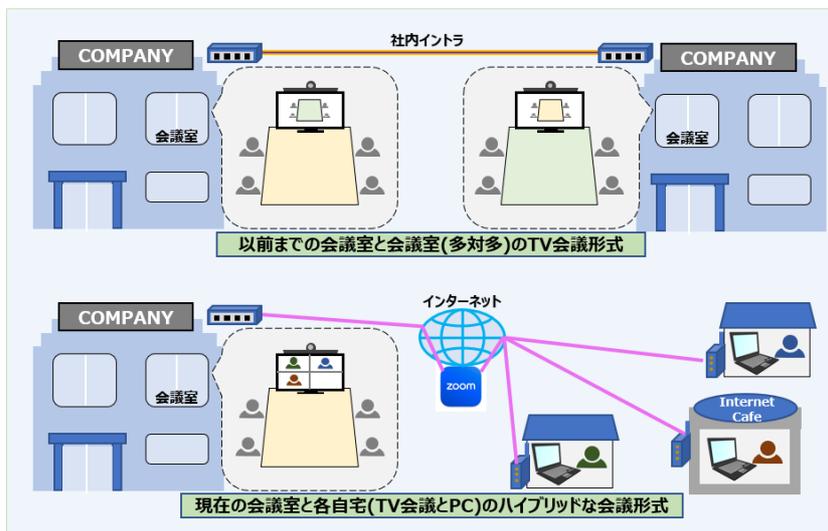
人材育成をすすめる組織ではこのDSCをたたき台にして、組織独自のコンピテンシー・インベントリーを整備し、その組織と働く人の強み弱みを把握し、組織内での学び合いを促進することでしごと力を向上し働き方を変えることができます。組織内での研修の指南役は相応しい方を組織内で選定し、KK²ブレンデッドラーニングを活用して対面学習・オンライン学習・オンデマンド学習によりできるだけ多くの方々に学習機会を用意し、ある分野の指南役は組織内での対面・オンライン・オンデマンドの照会対応を行い、コンピテンシー向上、エンゲージメント向上、コミュニケーション向上への仕組みであることが期待されます。

自ら考え行動するデジタル人材



(2) TV会議システム・Web会議システムの構築、保守管理業務

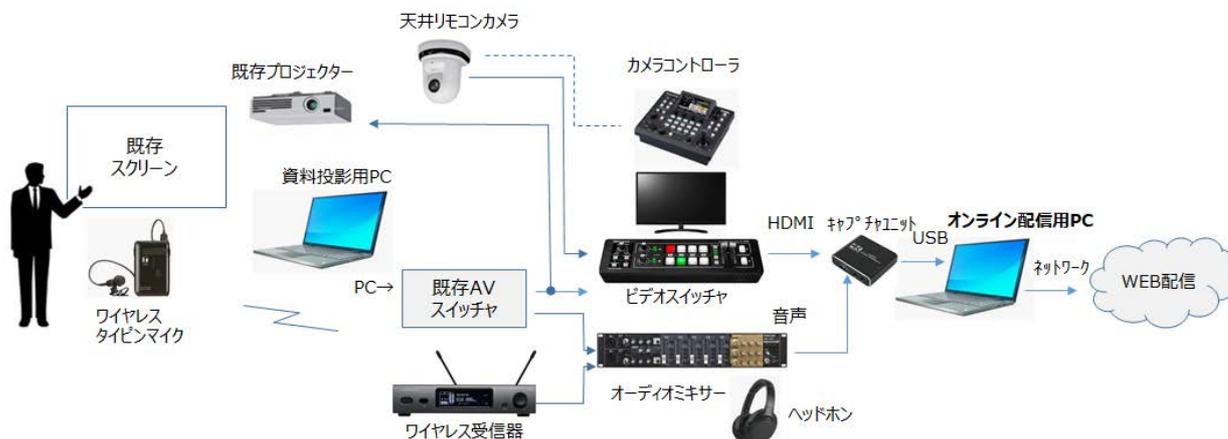
従来は会議室に設置し、閉域ネットワークが主だった利用だったTV会議システムは、COVID-19の影響による在宅勤務推奨により自社自体が減った為、一時的に著しく利用率を下げる事となりました。COVID-19前は会社の会議室と会議室を結ぶピア・ツー・ピアの会議が主流でしたが、COVID-19以降では一部の参加者は自宅のPCやスマートフォンで会議に参加するようになった為、会議室と自宅からの参加者の何れも、それぞれがWeb会議に接続し、リアルとバーチャルのハイブリッドな会議形式に変容しました。AVCCでは既存TV会議システムをWeb会議で利用するネットワーク設計・支援、TV会議システム及びAVシステムの更改・保守管理業務を行いました。



(3) 映像情報システムの構築、保守管理業務

公共施設、学校、企業等に設置されている映像情報システムを対象に、システムの保守管理業務や運用業務の支援を行いました。また、COVID-19により加速する、授業・講演のオンライン化対応の為のシステムリニューアルの提案や、双方向に映像音声通話を想定したオンライン対応会議室等、Society 5.0に則した新たな映像情報システムの構築を行いました。

既存AVシステムを利用したオンライン配信対応イメージ



- 1 千葉県松戸市教育委員会
 - ・ 松戸市文化ホール生涯学習情報提供システムへの機材提供及び維持管理
 - ・ 松戸市文化ホール講座室AVシステムへの機材提供及び維持管理
 - ・ 松戸市立博物館講堂内映像上映システムの機材提供及び維持管理
- 2 (公財) 松戸市文化振興財団
 - ・ 森のホール21催し物案内デジタルサイネージシステムへの機材提供及び維持管理
 - ・ 森のホール21舞台運営用カメラの維持管理

- ・ 松戸市民劇場舞台運営用カメラの維持管理
- － 3 学校法人昭和女子大学
 - ・ 大学内ホール、教室用AVシステムの維持管理
- － 4 学校法人松本歯科大学
 - ・ 30周年記念棟大小会議室AVシステムの維持管理、リニューアル提案
 - ・ Campus Inn 大教室AVシステムの維持管理、リニューアル提案
- － 5 学校法人愛知大学東京霞が関オフィス
 - ・ 愛知大学東京霞が関オフィスに設置しているパソコン等情報機器の維持管理
- － 6 日本アムウェイ合同会社
 - ・ 日本アムウェイ本社AVシステムの維持管理
 - ・ 日本アムウェイ本社ITVシステムの維持管理
 - ・ 日本アムウェイ地方プラザAVシステムの維持管理
- － 7 東京美装興業
 - ・ 東京美装興業本社研修室マルチビジョンシステムの提案

(4) TV会議システム運用業務

－ 1 TV会議システム運用業務の継続(令和4年4月～5月)

独立行政法人国際協力機構（JICA）では、平成29(2017)年5月まで、JICAにおけるTV会議システムの運用業務を当財団に委託してきましたが、平成29(2017)年6月より5カ年間は、「国際協力機構コンピュータシステム運用等業務」の中にTV会議システム運用業務を含めた業務内容で、アクセンチュア株式会社に委託することになりました。

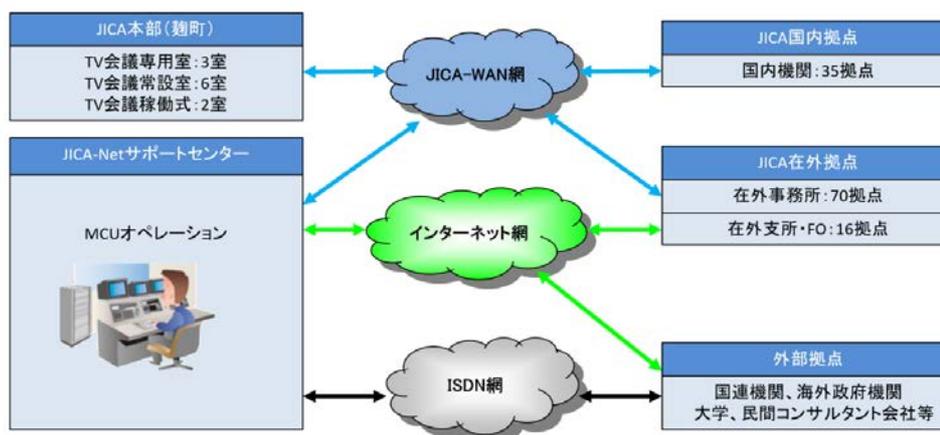
そこで、当財団では、令和4年度はアクセンチュア株式会社から「TV会議システム運用業務」の部分を受託し、JICA内に業務従事者を配置し、以下のようなTV会議システム運用業務や付随する業務を行いました。

1. TV会議予約管理業務
2. TV会議相互接続オペレーション業務
3. TV会議室、TV会議機器管理業務
4. TV会議機器保守サポート業務
5. TV会議グローバルヘルプデスク業務
6. TV会議システム更新に伴うコンサルティング業務
7. TV会議新設拠点への導入サポート業務

令和4年度のTV会議システムの利用実績(TV会議用AV設備のみ利用を含む)は、約350件で、令和3年度より10%以上の件数アップとなりました。

運用対象となる本部及び国内／在外拠点のTV会議システムに対象機器の増減などはありません。

TV会議システム全体概念図



－ 2 TV会議システム業務の延長(令和4年6月～)

令和4年5月31日までの契約期限前までに、令和4年6月1日から令和6年5月31日までの2年間の新たな契約を締結しました。

COVID-19禍でJICA内に広がった多様な働き方により、TeamsやZoomなどのWeb会議の利用が拡大し、TV会議システムの利用形態も変化したため、TV会議システム運用業務の契約内容を一部変更しました。

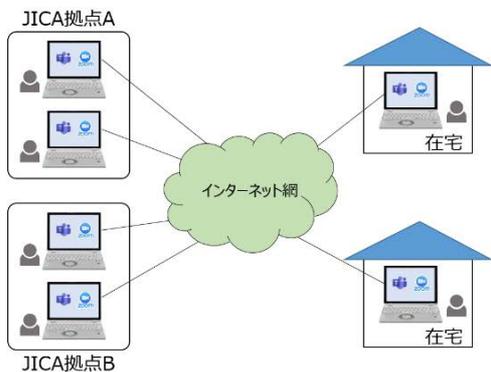
【主な変更点】

- ① TV会議システム利用時間の短縮
- ② TV会議システムに関する問合せ時間の短縮
- ③ Zoomアカウントの運用管理業務の追加

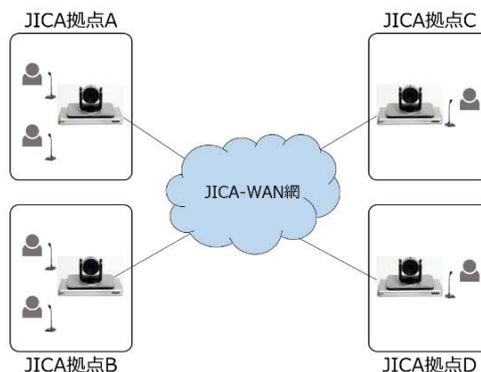
TV会議システムのための会議だけでなく、TV会議システム+Web会議(Teams、Zoom)のハイブリッド会議や、Zoomでの会議など、会議の目的や主催者/参加者のロケーションに合わせた構成をが提案し、利用者の増加と、満足度の向上を図ってまいりました。

【様々な会議接続イメージ】

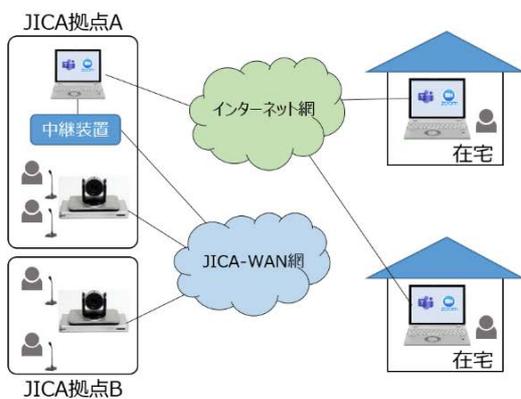
① Web会議のみ



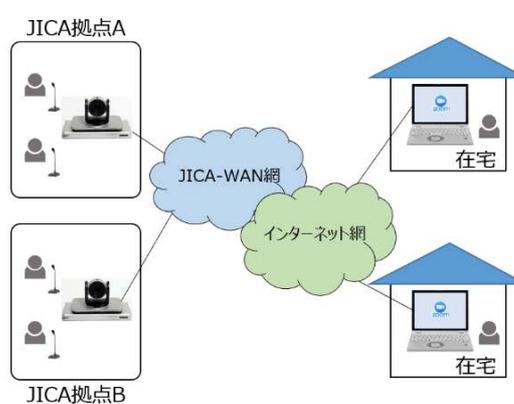
② TV会議のみ



③ 中継装置を利用した構成



④ Zoomのオプション機能を利用した構成



V 教育イノベーション推進部

概 要

教育イノベーション推進部では、令和4年度も引き続き日本生命相互保険会社様の営業職員向け「NICE-NETサービス」の提供、日本生命丸の内ビル及び日本生命浦安総合研修所においてAVシステム運営支援及び日本生命相互保険会社様とそのグループ企業様に対しTV会議システムの販売及び運用保守業務を引き続き行いました。

また、霞が関ナレッジスクエアが提供しているKK2デジタルプレゼンテーションプラットフォーム（DPP）の機能強化に伴うシステム開発及び運用業務についても引き続き行っています。

特に「NICE-NETサービス」については、令和5年3月末日に通信衛星を利用したサービスが契約満了となり、新たに（株）Jストリームが提供する動画配信基盤(Jstream Equipmedia)とAmazon Web services(AWS)を利用した新たな「NICE-NETサービス」を令和5年3月20日より提供しました。

また、KK²デジタルプレゼンテーションプラットフォーム（DPP）については、令和3年度より様々な分野で「チェック機能」としてご利用頂ける仕組みを開発しており、令和4年度は、新たに「デジタル仕事力チェック(DSC)」をリリースしました。

(1) 産学官連携事業「教育DX」推進

※「Ⅱ.霞が関ナレッジスクエア（KK²）事業」に技術提供し、事務局として活動しています。

詳細は、5ページから6ページをご参照ください。

- 1 オンラインIoT道場～RaspberryPiとPythonでIoTに挑戦！～

宇治市を拠点に「誰も取り残さないプログラミング塾『[楽々電子塾](#)』」を運営する[株式会社テラコナイテッド](#)様に全面協力をいただき、IoT人材の育成を目指したオンライン学習システムと学習教材の開発について令和3年度に第1期プログラミングと電子回路（基礎コース）の試行を行いました。

令和4年度は、第2期プログラミングと電子回路（応用コース）について試行しました。令和3年度の第1期受講者12名に修正したテキストの評価を兼ねて自学自習を実施しました（Python基礎講座13レッスン）。9月に第2期として新規の受講者16名にRaspberryPi400とブレッドボードを教材として配布しテキストの評価と試行を行いました。「Python基礎講座（13レッスン）」「PythonIoT

応用講座（11レッスン）」を受講し、疑問や質問については学習者をサポートするTA（Teaching Assistant）として第1期の受講者が対応をし、プログラミング講座として令和5年度の公開に向けて課題等の整理を行いました。



(2) NICE-NETサービスについて

日本生命保険相互会社様の営業職員向けに平成27(2015)年より提供しておりました「NICE-NETサービス」は、延長を含む8年間の契約が令和5年3月末日を持って満了となりました。この「NICE-NETサービス」は通信衛星を利用した仕組みであり、平成13(2001)年7月25日の第一世代「NICE-NETサービス」の提供開始から、7,919日を数えその役目が終了しました。

従いまして、令和4年度は年間を通しまして、令和5年3月20日にリリースしました新たな「NICE-NETサービス」の開発に注力いたしました。

－ 1 NICE-NETサービス業務の内容

① 配信管理

登録された番組が正常に受信サーバ（以下、「STB」）へ配信されるよう「サーバ設備」および「衛星設備」の常時監視を行いました。目視確認はもちろんのこと、エラー発生を検知し所定の連絡先へ非常時に発報するシステムを装備しており即時対応体制を取っております。

今年度も登録された番組、生放送に対する配信事故はありませんでした。

配信月	配信登録数	配信サイズ (GB)
4月	686	93
5月	330	51
6月	411	59
7月	246	49
8月	327	71
9月	342	40
10月	226	26
11月	182	21
12月	330	56
1月	179	22
2月	215	23
3月	445	58
合計	3919	569

令和4年度配信登録数(再配信も含む)

配信月	生放送回数
4月	1
6月	2
7月	2
12月	2

令和4年度生放送配信回数(テスト放送も含む)

② STB管理

STBは、全国の営業拠点に約2,230台設置されており、夜間の番組配信後に番組の到達確認とSTBが正常稼働しているかのステータス確認を日々行っております。

番組取りこぼしが発生した場合は再配信対応し、ステータスに異常がある場合は状況確認から原因特定し、一日でも早い復旧を目指します。

また、STB故障が発生した場合については保守会社へ指示し、3営業日以内の交換を死守しております。

令和4年度ステータス未取得要因一覧

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1ヶ月あたりのステータス未取得件数	150	184	142	255	193	187	190	326	230	203	223	198	2481
■ STB要因	59	64	40	70	61	57	55	223	54	77	51	53	864
1 STB故障	(2)	(1)	(2)	(3)	(6)	(4)	(1)	(2)	(2)	(1)	(0)	(0)	(24)
2 システムエラー	(57)	(63)	(38)	(67)	(55)	(53)	(54)	(221)	(52)	(76)	(51)	(53)	(840)
■ STB以外の要因	79	107	82	114	123	115	123	92	143	103	140	65	1,286
3 アンテナケーブルの抜け緩み破損	(22)	(17)	(13)	(10)	(8)	(11)	(12)	(12)	(15)	(7)	(11)	(7)	(145)
4 電源ケーブルの抜け緩み破損	(18)	(15)	(14)	(9)	(12)	(12)	(9)	(21)	(13)	(5)	(10)	(10)	(148)
5 アンテナ設備	(0)	(3)	(9)	(11)	(4)	(1)	(5)	(0)	(2)	(1)	(0)	(0)	(36)
6 ネットワーク系 (ケーブル破損含む)	(11)	(29)	(19)	(22)	(16)	(25)	(50)	(18)	(22)	(35)	(29)	(34)	(310)
7 ビル停電/工事	(2)	(27)	(25)	(4)	(17)	(23)	(46)	(38)	(21)	(11)	(86)	(13)	(313)
8 移設関係	(2)	(0)	(1)	(0)	(38)	(2)	(1)	(3)	(2)	(2)	(0)	(0)	(51)
9 現地要因 (STB移動等)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(2)
10 天候要因	(23)	(16)	(1)	(58)	(28)	(41)	(0)	(0)	(67)	(42)	(4)	(1)	(281)
■ その他の要因	12	13	20	71	9	15	12	11	33	23	32	80	331
11 その他(自然復旧含む)	(12)	(13)	(20)	(71)	(9)	(15)	(12)	(11)	(33)	(23)	(32)	(80)	(331)

令和4年度STB交換拠点数と故障要因

STB交換拠点数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1ヶ月あたりの交換件数	4	1	3	4	6	4	2	4	3	3	2	0	36件
○障害管理票(OSC)または現地からの照会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	件
○ステータス検知	4	1	3	4	6	4	2	4	3	3	2	0	36件
交換率(交換件数計÷2228)	0.2%	0.0%	0.1%	0.2%	0.3%	0.2%	0.1%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	1.6%
回復にかかった営業日数 平均	3.0	3.0	3.0	2.3	3.7	2.8	3.0	2.5	3.0	3.0	5.0		3.11日
最短	2	3	3	2	2	2	3	2	2	2	5	0	-
最長	4	3	3	3	7	5	3	3	4	4	5	0	-

故障内訳

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1 HDD交換	0	0	1	0	2	1	0	0	1	1	0	0	6
2 M/B交換	0	1	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	4
3 メモリ交換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 Cfast交換	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
5 チューナボード交換	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
6 電源部交換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7 FAN交換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8 ソフト破損 (APソフト再インストール)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9 現地設備不良 取扱上の障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10 不再現 (AP再インストール)	3	0	1	2	2	2	0	1	1	2	1	0	15
11 その他	0	0	0	1	1	1	0	2	1	0	1	0	7

③ 視聴率提供

STBから20:10～20:20の間に管理サーバへ当日視聴分の視聴データが返信され、収集されます。翌日の午前中に視聴データをDBへインポートし日々の視聴データを蓄積させて顧客より指定された番組の視聴率を日々提出しております。

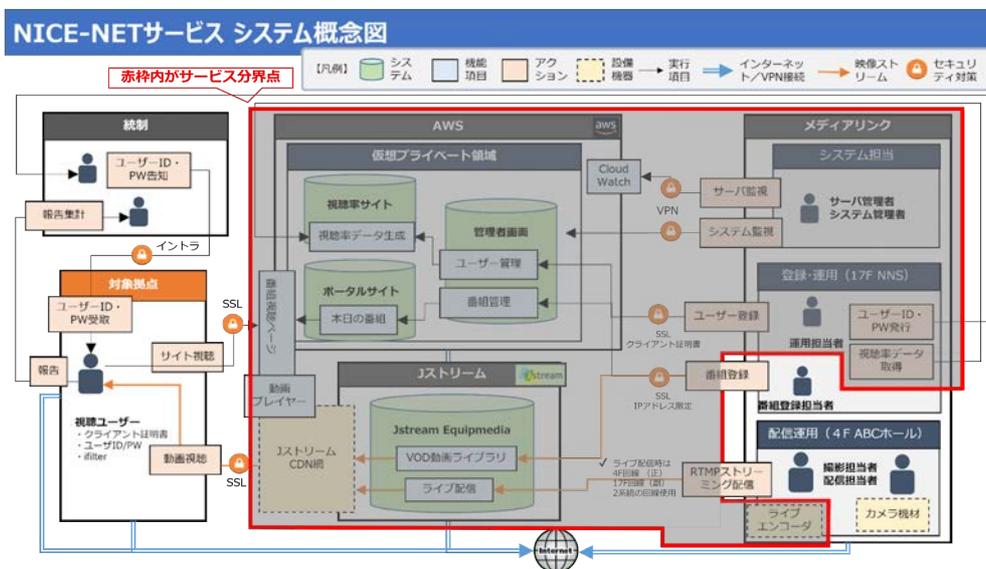
－ 2 次期NICE-NETサービスの開発

令和4年度は、日本生命保険相互会社様の営業職員向けにインターネット回線とAmazon Web services(AWS)、動画配信基盤(Jstream Equipmedia)を利用した新たな「NICE-NETサービス」の開発を実施し、令和5年3月20日に新サービスとしてリリースしました。

① 新たなNICE-NETサービスの提供

新たな「NICE-NETサービス」は、今までの通信衛星を利用した配信方式ではなく、(株)Jストリームが提供する動画配信基盤(Jstream Equipmedia)を利用し、ユーザー管理・コンテンツ管理・視聴履歴管理などの機能をAmazon Web services (AWS) に集約し構築したものです。

また、視聴側は、お客様にて用意したインターネット回線とタブレット(apple iPad) を大型モニタに投影し、コンテンツ番組一斉視聴と生放送の視聴が行える仕組みであり、また、本部からのお知らせ等は、サイネージ表示される仕様となっています。



NICE-NETサービス システム概要図

a. NICE-NETポータルサイト

NICE-NETポータルサイトは、大日本生命保険相互会社様の営業職員が利用するユーザー画面です。画面にアクセスするには、各視聴端末 (apple ipad) にインストールされているクライアント証

明書およびユーザーID・パスワードの2段階のセキュリティ認証が必要となります。

トップページは、サイネージ表示、本日・今月の番組の表示、システムからのお知らせ表示から構成されており、番組一覧表示、番組検索、マニュアル・Q&Aなど容易に操作できる画面構成としています。

視聴履歴画面では、今までに視聴した番組を一覧形式や番組別の視聴状況を確認することができます。また、支社は管理下にある営業拠点の視聴状況についても同様に確認することができます。

b. 保守・運用サービス

保守・運用サービスとは、「NICE-NETサービス」を安定的また継続的にサービス提供できることを目的に保守・運用を行います。

大きくは、営業拠点の維持増や組織改編に伴うユーザーID管理、視聴率データの抽出及び担当部署への連携、NICE-NETポータルサイト・動画配信基盤の監視など日々のサポート業務と、全国2,500余りの拠点を対象に「NICE-NETサービス」や視聴するための周辺機器に対し、ヘルプデスクを設置し、障害ポイントの切り分け業務及び各々の対応窓口への連携を行います。

その他、視聴端末（apple iPad）やブラウザ、アプリケーションのバージョンアップ、その他サービス仕様の変更など「NICE-NETサービス」を将来的に維持する体制整備も行っています。

－ 3 現行NICE-NETサービス終息に向けて

通信衛星を利用した「NICE-NETサービス」が、令和5年3月末日をもって終了しました。弊社保有資産（受信サーバ、配信・受信サーバ、監視装置）等についても令和5年4月以降、プロジェクト体制を構築し、撤去を実施していくこととなります。

（3）テレビ会議システムの運用支援、保守について

－ 1 日本生命保険相互会社様

令和2年8月にCiscoテレビ会議システムに大幅リニューアルし、Sony及びPolycomテレビ会議システムと混在するネットワークとなっており、現在、16か所のオフィスビルで111台のテレビ会議システムが稼働しています。

メーカー間の相互接続についても問題なく、社内、グループ会社間でご利用して頂いています。

－ 2 ニッセイ情報テクノロジー株式会社様

令和2年6月にPolycomテレビ会議システムに大幅リニューアルし、Sonyテレビ会議システムと混在するシステムになっており、現在、8か所のオフィスビルで93台のテレビ会議システムが稼働しています。

日本生命保険相互会社様との相互接続を含めて、社内、グループ会社間でご利用して頂いています。また、Zoomを使ったWeb会議システムについても運用支援を行いました。

－ 3 はなさく生命保険株式会社様

テレビ会議の相手側（日本生命保険相互会社様、ニッセイ情報テクノロジー株式会社様）で機器を入れ替えましたが、相性問題が発生することなく、テレビ会議をご利用いただいております。なお、はなさく生命保険株式会社様では2台のテレビ会議システムが稼働しています。

（４）ホール、会議室、研修室のAV運用支援業務、その他イベント支援について

－ 1 日本生命丸の内ビル

平成19(2007)年7月の竣工以来、同ビル4階に常駐し、サポート技術者3名体制で、AVシステムを活用したイベントや会議の運用サポート及びオペレーションサポートを行っております。引き続き、柔軟な対応を心がけお客様に満足いただけるよう今後も引き続き運用支援を行ってまいります。

主な業務内容は、以下のとおりです。

① ABCホール・NS会議室・日比谷ビル大会議室等での大空間場所運用支援

導入当初からシステムもデジタル方式に変わり、音響機器、映像機器設備品利用のサポートおよび保守を行いながら、客先イベントの部屋内での利用の満足度を上げています。また、常設設備にない機器、持ち込み機器等の利用や他の利用についても、相談、提案等をおこないながら客先要望に答えるべきイベントサポートを行っています。

② 役員会議室、役員室の運用支援

役員会議室等は、通常時、お客様で行っていますが、利用等の不具合や、設備の追加等を要望された時、運用支援、機器等のサポートを行っています。

③ 中会議室他会議室での運用支援

音響映像機器が設置されていない中小会議室で、AV機器の利用を求める客先に対し、移動型映像音響機器設備を利用し、設置設営や貸出を行っています。

④ 社内放送設備

社内放送設備機器の設置、移設、トラブル等をサポートしています。なお、上記場所での機器の保

守も行っていきます。(NICE-NET視聴テレビ)

⑤ 運用要員待機場所での機材、備品貸出

貸出備品の確保、予約、貸出等を行い、客先の利用に対応しています。(映像機器、音響機器、ケーブル類、電源タップ等)

⑥ テレビ会議利用における操作等の対応

丸の内ビル内での機器の操作や操作時のトラブル等の運用をサポートしています。

⑦ デジタルメディアのダビング等のサポート

社内研修の多様化に伴い、映像機器での収録をメディアに落とす必要性から客先でできない、読み込み書き出し、ダビング等のサービスを今後も行っていきます。(ホール、大会議室での収録、ダビングは、通常運用業務としておこなっております。)

その他に日本生命丸の内ビル以外(日本生命日比谷ビル)でのイベント等での映像音響機器の設置、運用サポートや、丸の内ビル外でのイベント等のサポートも行っていきます。

－ 2 ニッセイ総合研修所

令和4年度は、前年度同様サポート技術者1名体制にてAV設備の円滑な活用、並びにAV設備を活用した研修を促進することを目的として、運営支援業務を行いました。

主な業務は、AV機器の事前セッティング、利用方法の指導、利用時のオペレーション補助、トラブル対応、機器・消耗品の管理、メンテナンスの窓口業務、利用に関する相談窓口、見学者対応などであり、運営に係る様々な支援を行いました。

運営の委託を受けた機材・システムは前年度と同じく

- ① 大講堂AVシステム
- ② 大教室AVシステム(6室)
- ③ 中教室AVシステム(4室)
- ④ 中庭AVシステム
- ⑤ 館内放送システム(講堂から大・中教室への映像・音声デジタル放送配信)
- ⑥ デジタルサイネージ運用
- ⑦ その他 小教室液晶ディスプレイ(22室)、中教室液晶ディスプレイ(4室)、移動用ビデオプロジェクター・モバイルスクリーン、ビデオカメラ等です。

VI 教育情報サービス部

教育情報サービス部概要

新型コロナウイルス発生から3年余りが経過、国内の感染状況はピーク時と比べ一時低水準で推移し、従来の生活スタイルを取り戻したかのようであります。令和5年5月8日より政府は、新型コロナウイルス感染症の位置づけを2類相当から5類相当へ移行しました。ワクチンの普及やウイルスの弱体化や新薬の開発も進み、出張やイベントなども従来の形になりつつあります。しかし、コロナ禍が日本経済に与えた影響は大きく、教育情報サービス部においても働き方の変更を余儀なくされなました。引き続きリアルとリモートのハイブリッド運営について継続しながら、いつでも・どこでも働けるように、在宅での収録・編集作業の実施、ハイブリッドイベントの配信やWeb会議システムとの融合等新しい働き方を模索してまいります。

令和4年度は、コロナ禍で“人と人とのコミュニケーション”が希薄になったともいわれている時だからこそ教育情報サービス部では、“映像を使った人と人を繋ぐコミュニケーション”を大切に、「しごと力の向上」を目的とした教育訓練・情報伝達分野でデジタル社会普及の一翼を担ってまいりました。取り巻く環境は、いぜん予断を許さない状況であります。組織・業務体制等運営基盤を一層強化し、その取り組みを継続することにより、社員と家族の安心と健康を守り、改めてこのことを意識し皆でこの使命を共有し今年度事業に取り組んでまいりました。

(1) 誰もが、何時でも、何処でも、学習できる環境の提供

－ 1 映像教育コンテンツ制作

① 霞が関ナレッジスクエア「しごと力向上ライブラリ」コンテンツ制作

働く人の「しごと力向上」に役立つコンテンツ、デジタル社会・防災等、その時々合ったテーマをとり上げて映像コンテンツとして制作しました。令和4年度のしごと力向上教材制作支援は、しごと力を高めるビジネスコミュニケーション「7つの極意」5単元を1単元15万円×5単元で75万円の受注となりました。

② 企業研修教材VP制作

三番町スタジオ、霞が関ナレッジスクエア スタジオこれら2つのスタジオでの収録のほか、様々な企業・団体の動画教材制作支援を行いました。霞が関ナレッジスタジオでは、昨年度に引き続き日本

生命保険相互会社の役員が参加したWeb会議をはじめ内定式等社内の重要イベントを開催しております。

③ NICE-NET教育番組制作

令和4年度も、営業職員向け動画教材（商品研修／マナー／コンプライアンス等年間130本制作）や、職員目線にたった映像制作をデジタル（Zoom等）を活用し取材・編集作業を行いました。また、管理者向け教材（好取り組み事例紹介）では、年間5回にわたりコロナ禍でこれまでのような撮影班が現場に行き取材することが困難な為、撮影方法、必要な映像等事前にすり合わせを行い、お客様がスマートフォンで撮影した映像を元に編集して番組制作を行いました。

－ 2 イベント中継支援業務（Web会議・テレビ会議）

令和4年度は、衛星通信と地上回線を使用した生中継等を主に行ってきましたが、Zoom等のWeb会議（双方向）の使用はもちろんDPPの提案をはじめとした様々な要望を取り組みんだシステムを構築し、コロナ禍での新しい生活様式に対応したイベントとを実施しました。リアルとリモートを融合させたハイブリッド方式の表彰式典や総代会（株主総会）の開催をはじめ、企業の課題である人財育成に着眼した思い出に残る内定式や入社式を開催し好評を頂いております。また、霞が関ナレッジスクエアの出張版として企業様の会議室よりハイブリッド配信のお手伝いを行うなど新しい取り組みにも力を入れてまいります。

－ 3 遠隔教育登録配信業務

① NICE-NET衛星放送の配信登録業務

令和5年の新・NICE-NET運用に移行するために、衛星通信の配信と地上回線での配信のサイマル運用を行いました。令和5年3月より無事安定運用に移行し新サービスの提供を行っております。この「安定性と安全性」は信頼できるNICE-NET配信事業の根幹であり、万全の管理体制を整える為、マニュアルの整備をはじめ運用体制の強化と人員の入れ替えを行いました。これまでの蓄積等を積極的に開発部隊と連携し、引き続きユーザー様に最高のサービスを提供できるソリューションを目指し協力して行きます。

② E-ラーニング

霞が関ナレッジスクエアが提供するLMSを利用する企業、団体のコンテンツ管理、受講者登録管理等の運用を通じて企業教育を支援いたしました。

・ビル管理株式会社 約1,400人

- ・不動産関連NPO法人 13人

－ 4 その他

① プレゼンテーション・映像音響・映像制作システム企画設計構築

a. 日本生命本店スタジオサーバ設備構築業務

大阪本店スタジオでは、東京丸の内スタジオと同様の収録・編集映像データをファイルベース化するシステムの導入を計画し実施いたしました。

b. 日本生命映像情報システム保守業務

下記を実施いたしました。

- ・日本生命丸の内（4Fホール等）
- ・日比谷ビル映像音響設備の保守
- ・日本生命丸の内スタジオ設備の保守
- ・日本生命本店役員会議室映像音響設備の保守
- ・日本生命東館ホール映像音響設備の保守
- ・ニッセイ総合研修所映像音響設備の保守

c. 映像情報ネットワーク運用支援を実施いたしました。

② ウェブ・コンテンツ企画制作

令和3年度に引き続き、ページ作成・更新、メールマガジン制作・発送、アクセス集計、データ登録、問い合わせ対応などを実施しております。

a. WordPressを使用 ページ作成・更新や各種お問い合わせ対応

b. 日本生命財団様

c. 警察大学校様

Ⅶ 運営に関する事項

(1) 役員名簿

理事長	久保田了司	当財団代表理事
常務理事	久保田庸弘	当財団業務執行理事
理事	清水 康敬	東京工業大学 名誉教授
	永岡 慶三	早稲田大学 名誉教授
	伊東信一郎	ANAホールディングス(株) 特別顧問
	佐野 元昭	(株) ケイ・アイ・エ情報科学研究所 代表取締役社長
	伊庭野基明	グローバルキャリアカウンセラービジネスコーチ
	馬場 弘子	ワインコーディネーター サントリーパブリシティサービス(株) 元常務取締役
	田中 純一	(一社) ビル減災研究所 代表理事
	平田 英世	富士通(株) 元シニアアドバイザー
	秋田 義一	(一社) 話力総合研究所 代表理事
監事	鈴木 重文	弁護士
評議員	米里 文明	(株) インフィタルインフォメーション 元代表取締役社長
	稲葉 徹	センクシア(株) アドバイザー
	大串 夏身	昭和女子大学 名誉教授
	唐澤 誠	(株) 唐澤誠建築音響設計事務所 代表取締役
	近藤 孝夫	(株) 同学社 代表取締役
	野田 弘子	プロビティコンサルティング(株) 代表

(2) 会議の開催

－ 1 第1回理事会(通常)

開催日：令和4年6月7日

開催場所：霞が関ナレッジスクエア

主な議題：令和3(2021)年度事業報告書・決算報告書

(株)メディアリンクへの業務委託報告

就任候補理事について

名称および定款変更について

－ 2 第 1 回評議員会（定時）

開催日：令和4年6月23日

開催場所：霞が関ナレッジスクエア

主な議題：令和3(2021)年度事業報告書・決算報告書

（株）メディアリンクへの業務委託報告

理事改選について

役員報酬について

名称および定款変更について

－ 3 第 2 回 理事会（臨時）

開催日：令和4年6月23日

開催場所：霞が関ナレッジスクエア

主な議題：代表理事・業務執行理事の選定について

－ 4 第 1 回 事業連携会議

開催日：令和4年7月15日

開催場所：霞が関ナレッジスクエア

主な議題：令和4(2022)年度霞が関ナレッジスクエア事業活動予定

新体制の確認

－ 5 第 3 回理事会（通常）

開催日：令和5年3月23日

開催場所：霞が関ナレッジスクエア

主な議題：令和5(2023)年度事業計画書・収支予算書

（株）メディアリンクへの業務委託予定

(3) 会員等 (令和5年3月)

賛助会員：40団体

協賛メンバー：31団体

法人メンバー：2団体

Web会員：23,825名

【令和4(2022)年度事業報告の附属明細書について】

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する事業報告の附属明細書として記載すべき「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

以 上